

小学校における英語教育の充実について (論点整理に向けて)

小学校外国語活動について

- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」
(平成20年1月中央教育審議会)(抜粋)

6. 教育課程の基本的な枠組み

(1) 小・中学校の教育課程の枠組み

② 小学校の授業時数(年間の総授業時数)

(小学校段階の外国語活動)

- (前略)小学校段階にふさわしい国際理解やコミュニケーションなどの活動を通じて、コミュニケーションへの積極的な態度を育成するとともに、言葉への自覚を促し、幅広い言語に関する能力や国際感覚の基盤を培うことを目的とする外国語活動については、現在、各学校における取組に相当ばらつきがあるため、**教育の機会均等の確保や中学校との円滑な接続等の観点から、国として各学校において共通に指導する内容を示すことが必要**である。その場合、目標や内容を各学校で定める総合的な学習の時間とは趣旨・性格が異なることから、総合的な学習の時間とは別に**高学年において一定の授業時数(年間35単位時間、週1コマ相当)を確保することが適当**である。

現行学習指導要領の概要

基本的考え方

○小中高を通じて、**コミュニケーション能力を育成。**

- 言語や文化に対する理解を深める
- 積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する
- 「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能をバランスよく育成する

○指導語彙を充実(中高を通じて **2, 200語** から **3, 000語** に)

I. 小学校学習指導要領(平成20年3月改訂)(平成23年度から実施)

- 平成23年度より、**5・6年生において、外国語活動を週1コマ導入。**平成21年度及び22年度は、学校の判断により先行実施が可能。教科としては位置づけず(成績評価は文章による記述)。
- 音声や基本的な表現に慣れ親しむことを中心
- 学級担任または外国語を担当する教員による実施が中心(ネイティブ・スピーカーや外国語に堪能な地域の人々の協力)

II. 中学校学習指導要領(平成20年3月改訂)(平成24年度から実施)

- 各学年の授業時数を**週3コマから週4コマ(約3割増)へ充実**
- 従前の「聞く」「話す」を重視した指導から**4技能のバランス取れた指導への改善**
- 指導語彙を900語から1, 200語へ充実

III. 高等学校学習指導要領(平成21年3月改訂)(平成25年度から年次進行で実施)

- 選択必修から「コミュニケーション英語Ⅰ」の共通必修に変更する等、科目構成を変更
- 生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は生徒の理解の程度に応じた**英語を用いて行うことを基本とする**ことを明示
- 指導語彙を1, 300語から1, 800語へ充実(※)

(※) コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ及びⅢを履修した場合。

小学校外国語活動(5, 6年生)の成果・効果について

平成23年度より、小学校高学年(5, 6年生)に外国語活動(週1コマ)を導入後、

○児童生徒:小学生の72.3%(71.7%)が「英語の授業が好き」、91.5%(91.5%)が「英語が使えるようになりたい」、中学1年生の8割以上が、小学校の外国語活動で行った「アルファベットを読むこと」や「英語で簡単な会話をする」ことが「中学校で役立っている」と回答。

○小学校教員:導入前と比べ、高学年児童に「成果や変容がみられた」と感じる教員が76.6%(76.5%)

○中学校教員:導入前と比べ、中1の生徒に「成果や変容がみられた」と感じる教員が65.3%(77.8%)

その変容として、外国語によるコミュニケーションへの積極的な関心・意欲・態度のみならず、英語を聞いたり話したりする力もついてきていると挙げている。

(出典:平成26年度小学校外国語活動実施状況調査)

※上記()内の数値は、H23,24実施の調査結果

【現状】

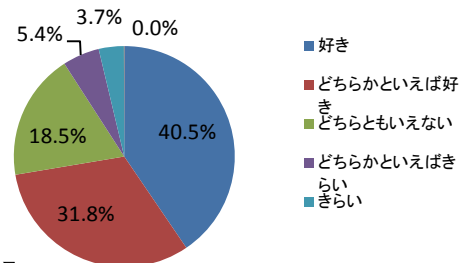
目標:外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。



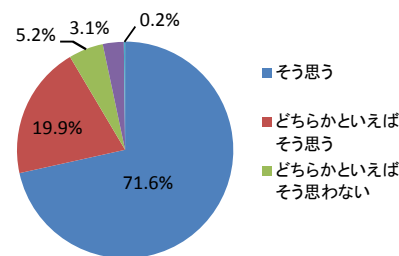
【成果】

○外国語活動に肯定的な児童が多い。

Q 英語の授業は好きですか



Q 英語が 使えるようになりたいですか



出典:小学校外国語活動実施状況調査(H24年)

【課題】

○中学1年生の約8割が、小学校で「英単語・文を読む」「英単語・文を書く」ことをもってしておきかったと回答。

○①ALT等と打合せや教材研究をする時間の確保、②外国語活動の指導力、指導力向上のための研修機会が不十分であると感じている。

◆中学1年生は、小学校外国語活動の授業で学んだことが中学校の英語の授業で役だったと考えている。特に「話す」「聞く」ことで役立ったと回答。

	構成比
英語で簡単な会話をする	82.8%(80.5%)
英語の発音を練習すること	75.8%(73.7%)
友だちや先生などが英語で話しているのを聞くこと	73.2%(71.7%)
英語で自分のことや意見を言うこと	55.5%(53.9%)
英単語を読むこと	72.9%(68.4%)
英語の文を読むこと	60.8%(53.3%)

出典:小学校外国語活動実施状況調査(H26年)
※()内の数値は、H24実施の調査結果

◇東京都における小学校外国語活動の成果

東京都中学校英語教育研究会より

○小学校外国語活動の影響で臆することなく、コミュニケーションができる生徒が増加

○小学校外国語活動の効果で、音声に慣れている。

○低・中学年で週2時間外国語活動を行っている地区では中学に入った段階で文字が読める・書ける。

(参考)主な課題

○中学校入学以前に、「英語は苦手」と感じる生徒がいる。

東京都A区より

○小学校外国語活動の影響で臆することなく、コミュニケーションができる生徒が増加

○コミュニケーションへの関心・意欲・態度の高まり

○小学校外国語活動の効果で、音声に慣れている。

小学校外国語活動(5, 6年生)の成果・効果について

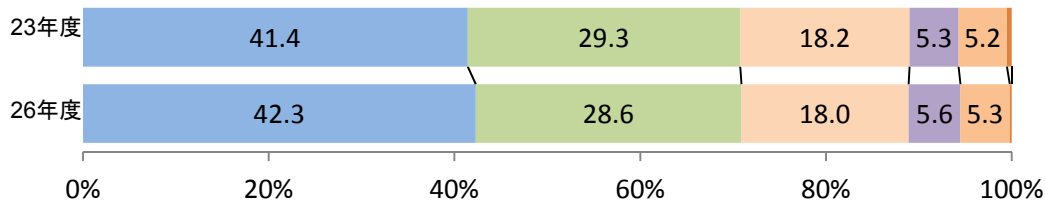
出典: 小学校外国語活動実施状況調査(H26) 小学校5, 6年児童約2万人、中学校1・2学生徒約2万人、小学校管理職・学級担任、中学校管理職・外国語科担当教員それぞれ約3千人を対象に調査

英語に対する意識

- 児童の70.9% (70.7%) が「英語が好き、どちらかといえば好き」と回答。
()内は、23年度調査結果

Q あなたは、英語が好きですか。(単数回答)

■好き ■どちらかといえば好き ■どちらともいえない ■どちらかといえば嫌い ■嫌い ■無回答

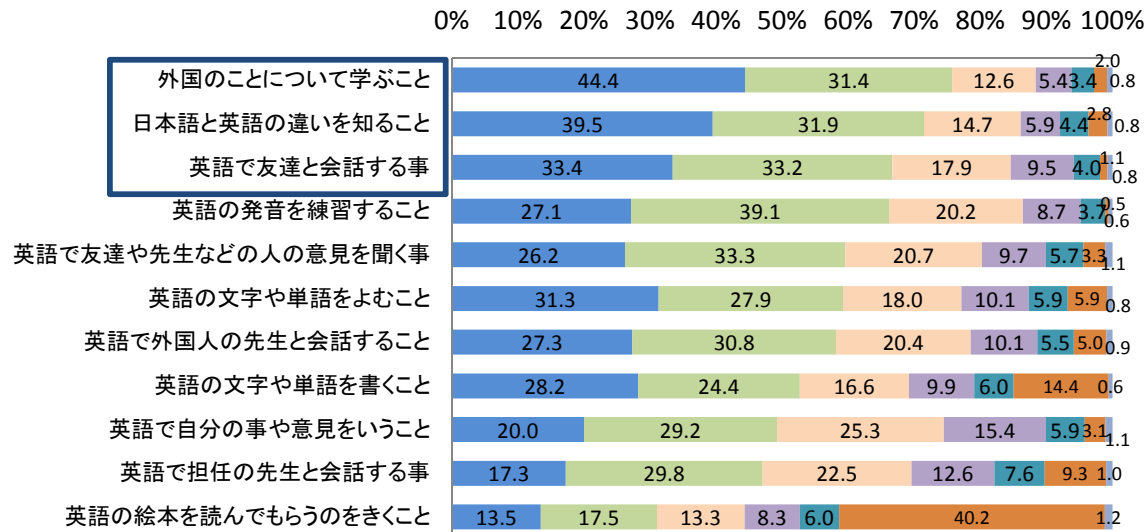


英語の授業に対する意識

- 英語の授業の中で楽しいと思うことについて、児童の
 - ・75.8% (74.1%) が「外国のことについて学ぶこと」
 - ・71.4% (70.4%) が「日本語と英語の違いを知ること」
 - ・66.7% (64.8%) が「英語で友達と会話すること」と回答。
()内は、23年度調査結果

Q. 英語の授業の中で楽しいと思うことはどのようなことですか。(単数回答)

■あてはまる ■どちらかといえばあてはまる ■どちらかといえばあてはまらない ■あてはまらない



将来の英語使用に対する意識①

- 児童の91.5% (91.5%) が「英語を使えるようになりたいですか」という問いに「そう思う、どちらかといえばそう思う」と回答。
()内は、23年度調査結果

Q. あなたは、英語が使えるようになりたいですか。(単数回答)

■そう思う ■どちらかといえばそう思う ■どちらかといえばそう思わない ■そう思わない ■無回答

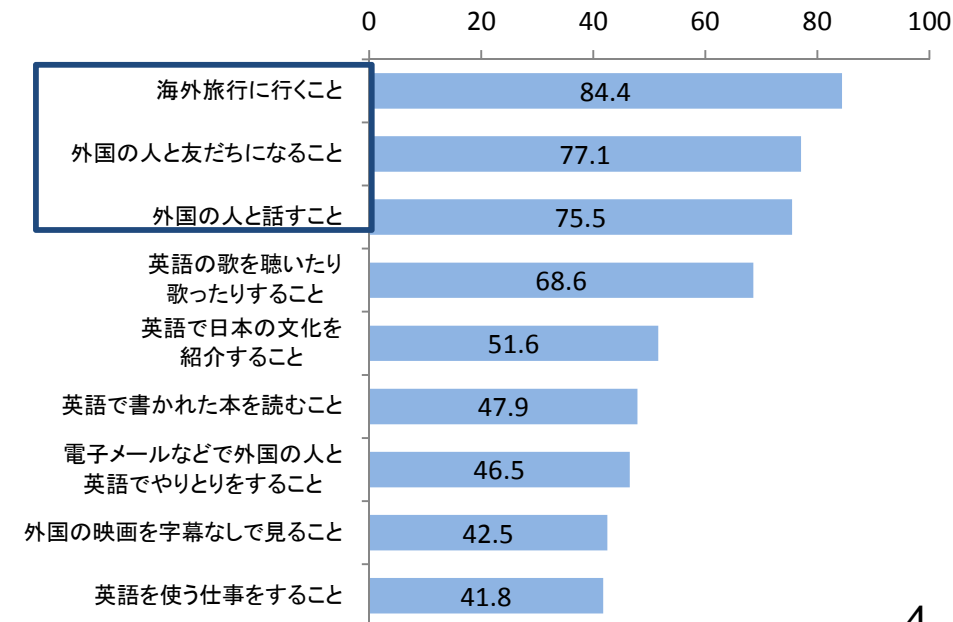


将来の英語使用に対する意識②

- 「これから英語を使ってしてみたいことは何ですか」という問いに対し、児童の
 - 84.4% (88.3%) が「海外旅行に行くこと」、
 - 77.1% (78.3%) が「外国の人と友達になること」、
 - 75.5% (75.9%) が「外国人と話すこと」と回答。
()内は、23年度調査結果

Q これから英語を使ってしてみたいことは何ですか。

※「してみたい」、「してみたくない」のうち、「してみたい」と回答した割合



小学校外国語活動(5, 6年生)の成果・効果について(小・中学校教員対象調査結果より)

出典: 小学校外国語活動実施状況調査(H23,H26) 小学校5, 6年児童約2万人、中学校1・2学生徒約2万人、小学校管理職・学級担任、中学校管理職・外国語科担当教員それぞれ約3千人を対象に調査

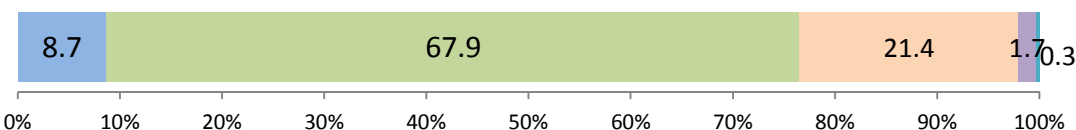
児童の変容(小学校学級担任(外国語科担当教員)回答)

○ 教員の76.6%(76.5%)が「外国語活動実施前に比べて、学級の児童に変容がとてみられた、まあみられた」と回答。

そのうち、78.5%(77.6%)が「外国語の音声に慣れ親しんだ」、64.2%(63.9%)が「外国語の基本的な表現に慣れ親しんだ」と回答。()内は、23年度調査結果

Q. 外国語活動による児童の変容状況(単数回答)

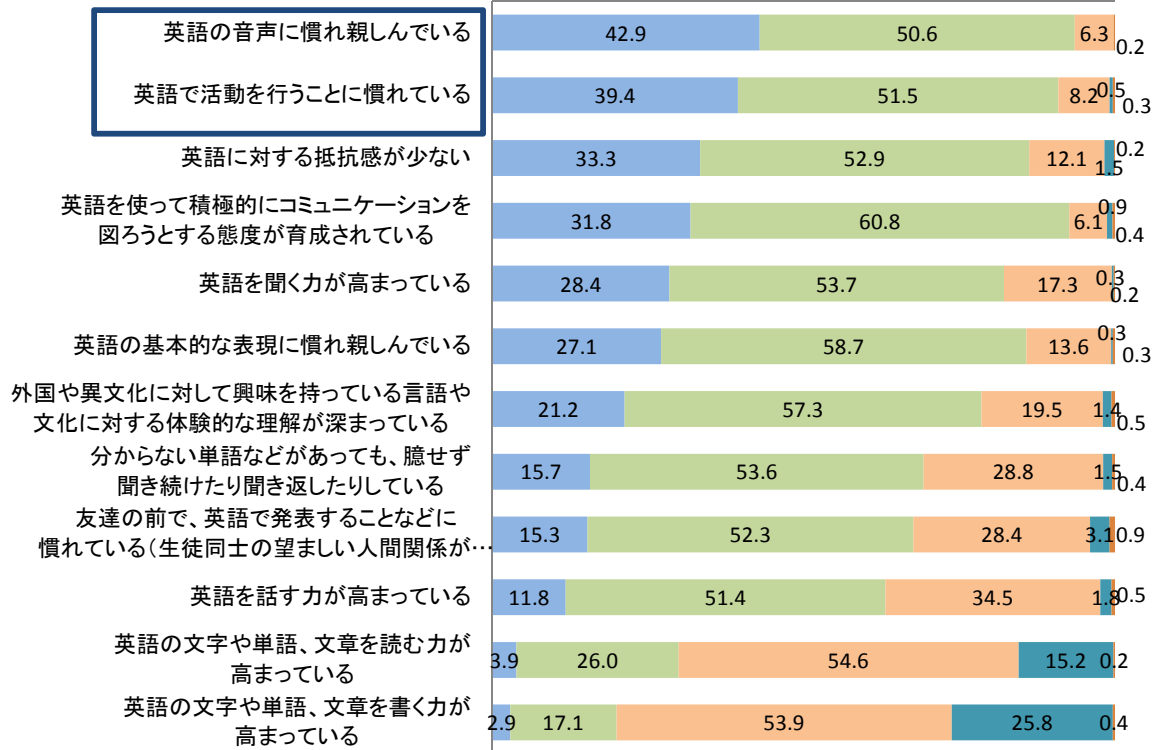
■ とてもみられた ■ まあみられた ■ あまりみられなかった ■ まったくみられなかった ■ 無回答



Q. 具体的にどのような成果や変容がみられましたか。あてはまるものをすべて選んで下さい。(複数回答可)

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ まったくそう思わない ■ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



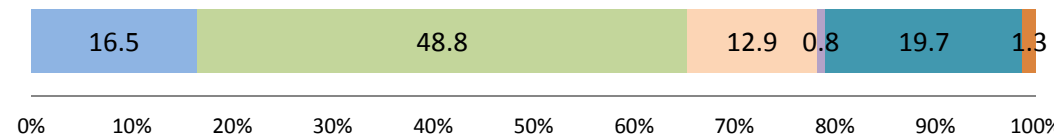
外国語活動を経験した中学1年の生徒の変容(中学校外国語科担当教員回答)

○ 小学校で外国語活動を経験したことにより、「英語の音声に慣れ親しんでいる」93.5%(92.2%)、「英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されている」92.6%(91.9%)などの成果や変容が見られる。

※上記の%数値は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計
()内は、24年度調査結果

Q. 外国語活動による生徒の変容状況(単数回答)

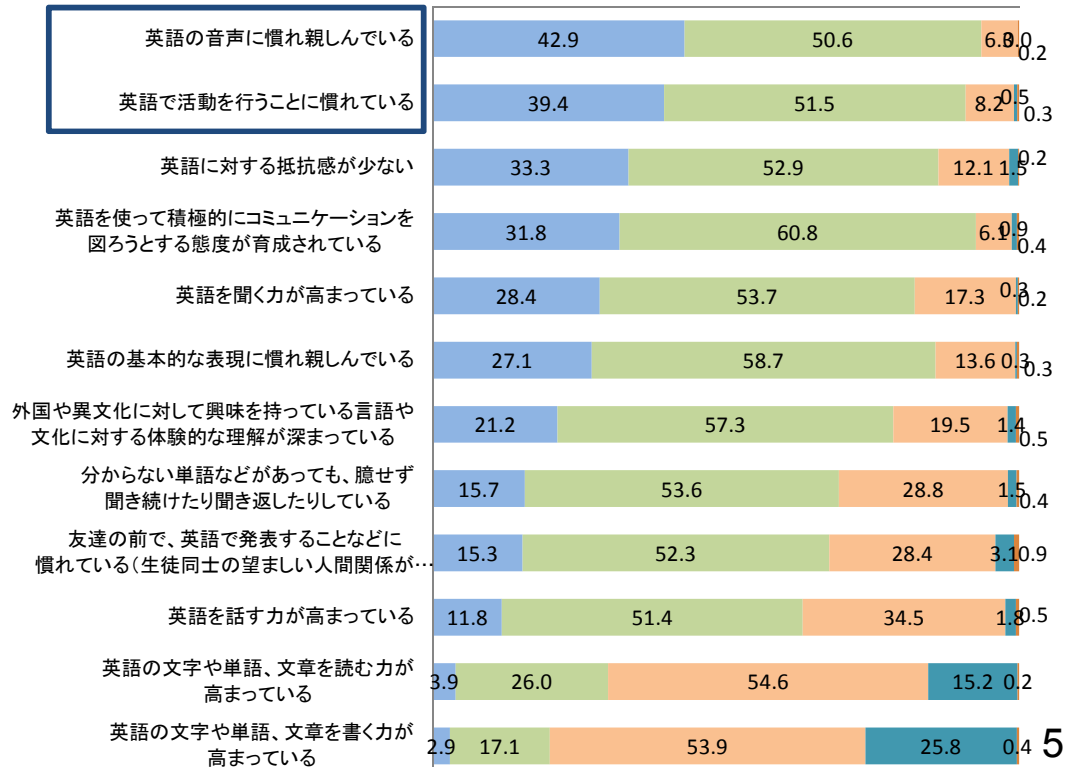
■ とてもみられた ■ まあまあみられた ■ あまりみられなかった ■ まったくみられなかった ■ 外国語活動導入前の第1学年の生徒を担当したことがない ■ 無回答



Q. 具体的にどのような成果や変容がみられましたか。あてはまるものをすべて選んで下さい。(複数回答可)

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない ■ まったくそう思わない ■ 無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



小学校外国語活動(5, 6年生)の成果・効果について (中学1年生対象調査結果より)

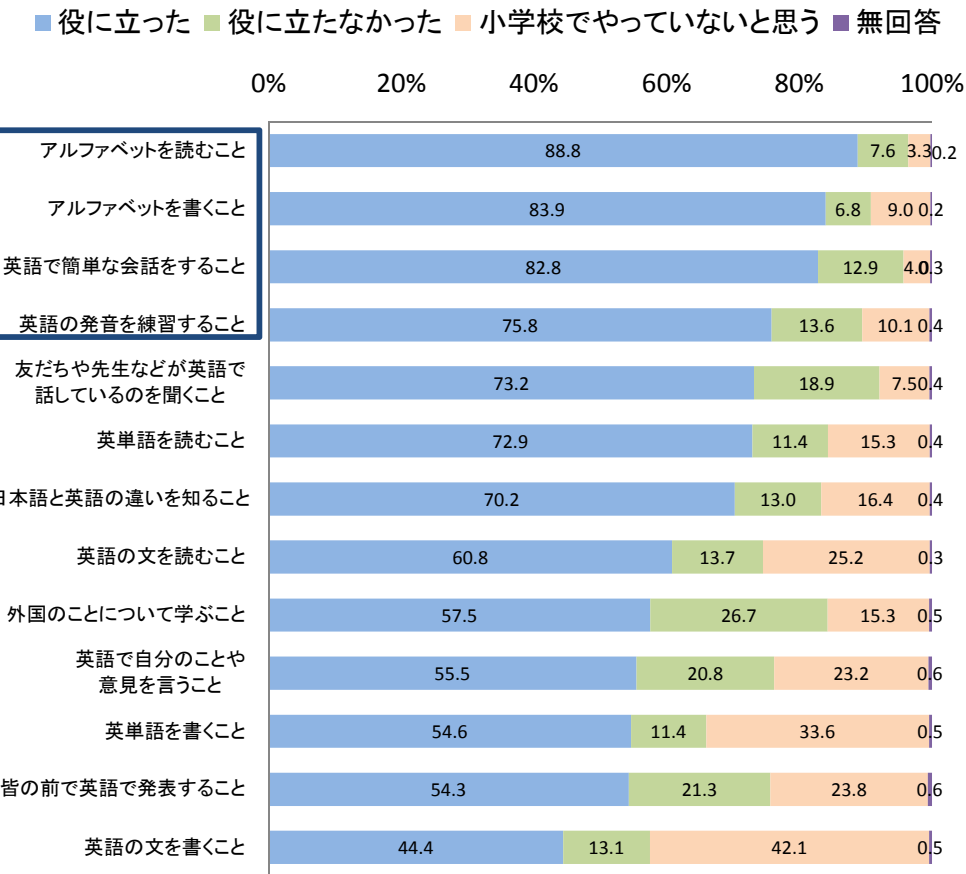
出典: 小学校外国語活動実施状況調査(H26) 小学校5, 6年児童約2万人、中学校1・2学生徒約2万人、小学校管理職・学級担任、中学校管理職・外国語科担当教員それぞれ約3千人を対象に調査

小学校外国語活動が中学校でどのように役立ったか (中1)

- 「小学校の外国語活動で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったこと」として、
生徒の88.8%が「アルファベットを読むこと」(86.8%)、
83.9%が「アルファベットを書くこと」(80.7%)、
82.8%が「英語で簡単な会話をする事」(80.5%)、
75.8%が「英語の発音を練習すること」(73.7%)、
と回答。

()内は、24年度調査結果

Q. 小学校の英語の授業で学んだことの中で、中学校の英語の授業で役に立ったことはありますか。(単数回答)



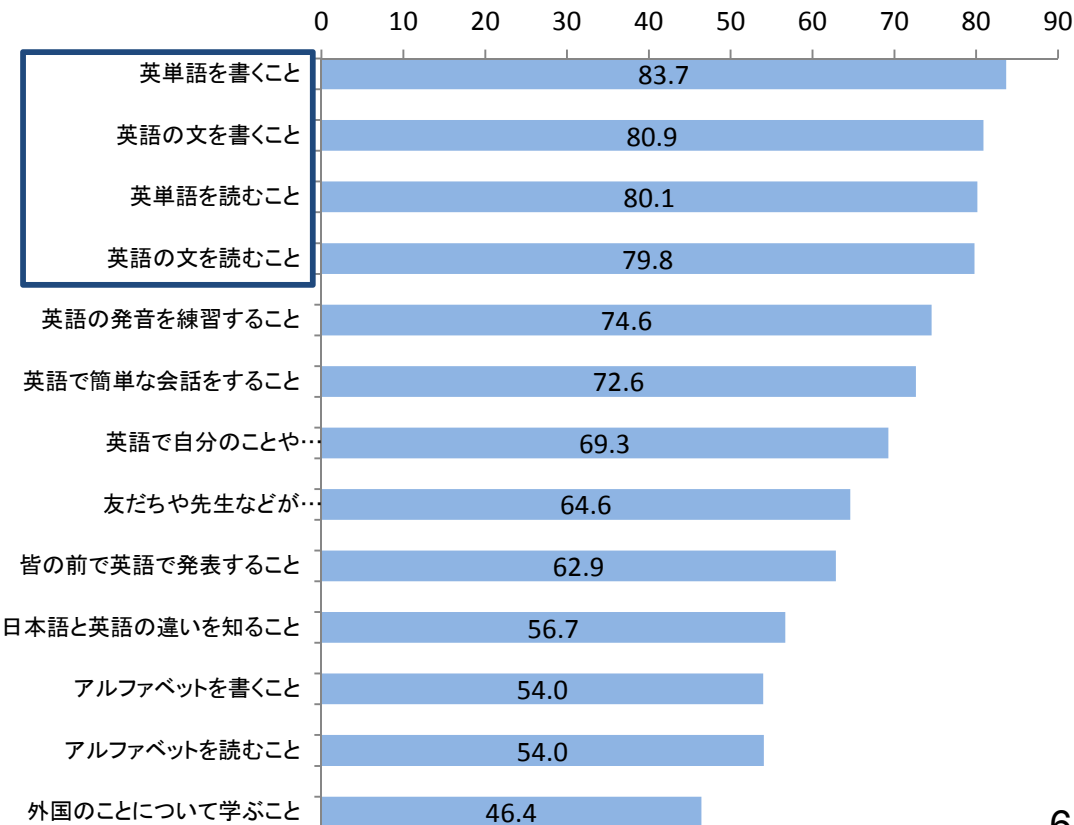
小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと (中1)

- 「小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったこと」として、
生徒の83.7%が「英単語を書くこと」(81.7%)、
80.9%が「英語の文を書くこと」(78.6%)、
80.1%が「英単語を読むこと」(77.9%)、
79.8%が「英語の文を読むこと」(77.6%)、
と回答。

()内は、24年度調査結果

Q. 以下の項目は、小学校の外国語活動でもっと学習しておきたかったと思いますか。

※「そう思う」「そう思わない」「無回答」のうち、「そう思う」と回答した割合



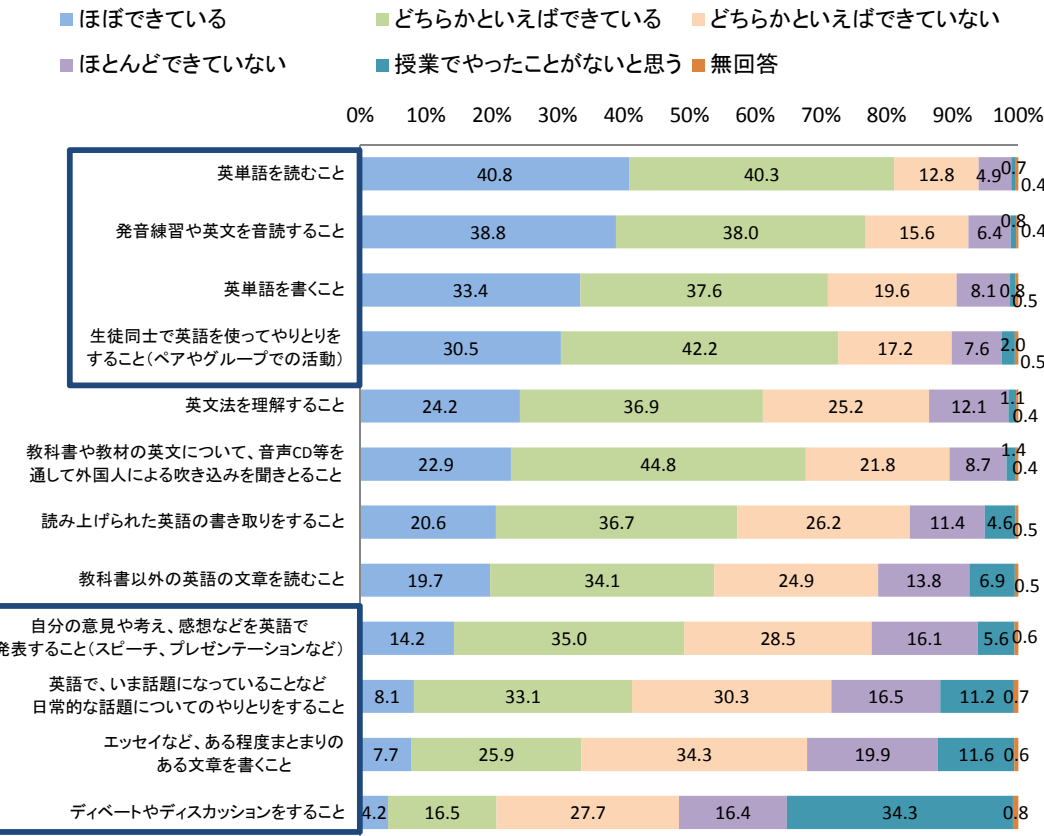
中学校における英語科授業の取組状況（中学2年生、中学校教員対象調査結果より）

出典：小学校外国語活動実施状況調査（H26） 小学校5、6年児童約2万人、中学校1・2学生徒約2万人、小学校管理職・学級担任、中学校管理職・外国語科担当教員それぞれ約3千人を対象に調査

英語の授業での取組状況（中2）

- 授業でどの程度できていると思うかについて、生徒の
 - ・ 81.1%が「英単語を読むことができている、ほぼできている」
 - ・ 76.8%が「発音練習や英文を音読することができる、ほぼできている」と回答。
- 一方で、
 - ・ 33.6%が「エッセイなど、ある程度まとまりのある文章を書くことができている、ほぼできている」
 - ・ 20.7%が「ディベートやディスカッションをすることができる、ほぼできている」と回答。

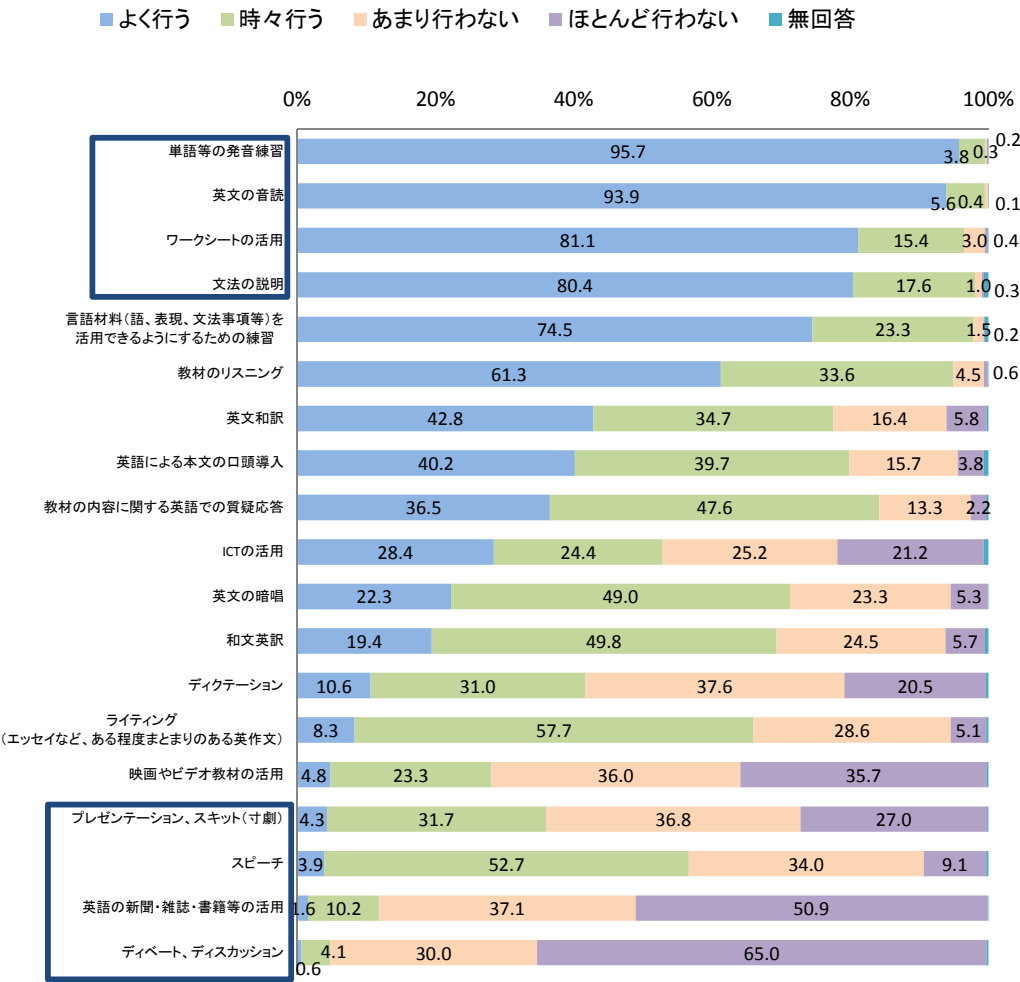
Q. 英語の授業の中で、次の項目についてどの程度できていると思いますか。（単数回答）



授業における言語活動の指導（中学校外国語科担当教員回答）

- 「文法の説明」98%や「言語材料を活用できるようにするための練習」97.8%に比べ、それをさらに活用して行う「スピーチ」56.6%、「プレゼンテーションやスキット（寸劇）」36.0%、「ディベート、ディスカッション」34.7%の割合は低い。
※上記の%数値は「よく行う」「時々行う」の合計

Q. あなたの英語の授業において、次のようなことをどのくらい行いますか。（単数回答）



公立の小学校における先進的な取組状況

【先進校(研究開発学校・教育課程特例校等)の傾向】

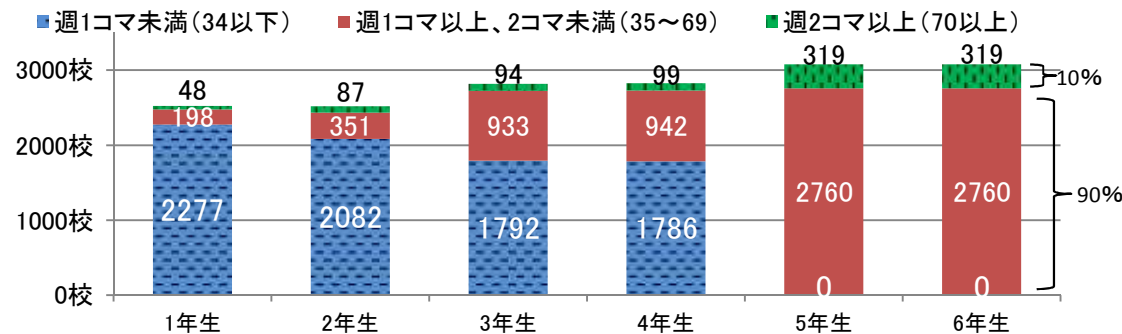
※約2万1千校のうち、約3千校(約15%)

(出典:小学校における先進的な英語教育に関する調査(H25))

- 小学校中学年(3、4年生)からは活動型(外国語活動):週1コマを導入し、ネイティブ等外部人材を活用し学級担任中心に「聞く」「話す」ことを通して、児童にコミュニケーション能力の素地を育成
- 高学年(5、6年生)は教科型:週1～3コマ程度を導入し、ネイティブ等外部人材を活用し、学級担任や専科指導を行う教員を中心に文字と発音の関係など「読む」「書く」も含めた4技能の初歩的な英語の運用能力を育成

年間授業時数

- ◆学年が上がるにつれて、授業時数も増加傾向
- ◆1年～4年は、年34コマ以下の学校が多くみられる
- ◆5・6年は週1コマ以上2コマ未満が90%、週2コマ以上が10%



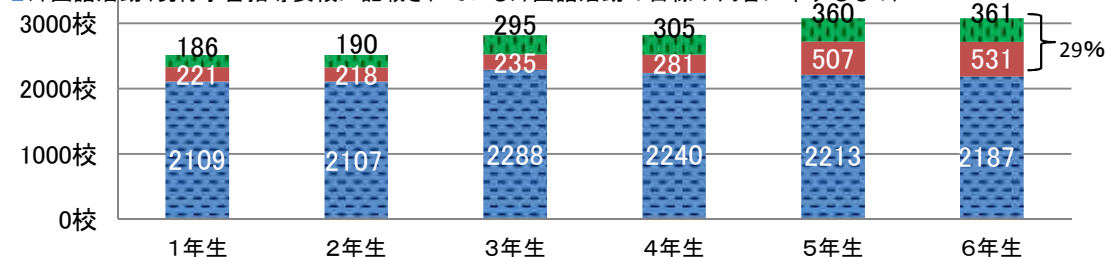
指導内容

- ◆各学年ともに、およそ7割の学校が、現行学習指導要領に記載されている外国語活動の目標や内容に準じて指導を行っている
- ◆中学校と連携できている学校は少ない
- ◆中学校の内容を一部行っている学校は29%

■小学校において中学校の指導内容を一部前倒しているが、指導内容については中学校と連携していない

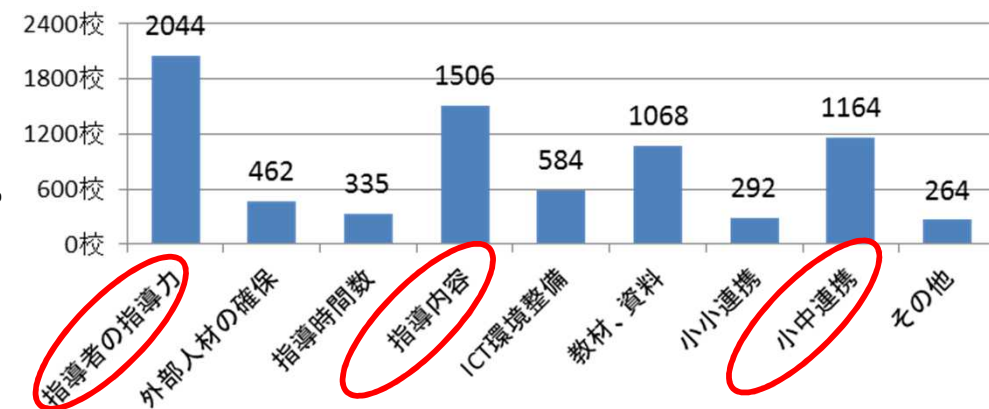
■小学校において中学校の指導内容を一部前倒すると共に、指導内容について中学校と連携している(連携先の中学校において指導内容を見直している)

■外国語活動(現行学習指導要領に記載されている外国語活動の目標や内容に準ずるもの)



指導上の課題

- ◆先進校では、指導面における課題が多くみられるが、一方で外部人材の確保等体制面においては比較的課題を感じていない傾向にある
- ◆小中連携においても比較的課題が多い



深谷市の例

○小学校において、第3学年から週1コマ、活動型として英語教育を実施した場合の小中連携による英語教育の在り方について研究開発を実施(小学校19校、中学校10校)

- ・小3～6年の90%以上は、外国語活動の授業が楽しいと答えている。
- ・中学校英語科授業が楽しいと答えている中1は、約85%、中2約80%、中3約76%。
- ・中学校において、「授業で積極的に英語を使っている生徒の割合」が増加。

これまでの成果・課題を踏まえ、今後の小学校中学年における外国語活動の導入と、高学年でのより系統性を持たせた体系的な指導を想定し、次のような目標・内容の改善を図る。その際、英語だけに限らず、世界には多くの言語があることや、国語教育との連携も通じて、言語に対する興味・関心を高めることが重要である。

小学校中学年

- 小学校中学年において外国語活動を導入する場合、これまでの先進的な取組の成果・課題を踏まえ、
 - ・例えば、英語学習に対するモチベーションや、聞き取り、発音に関して効果があると考えられること、また音声を中心に体験的に理解を深めることは、小学校中学年の児童の発達段階により適していると考えられる。
 - ・このため、中学年では、言語や文化についての体験的理解や、外国語の音声等への慣れ親しみ、コミュニケーションへの積極性を中心とする「外国語活動」(活動型)を行い、コミュニケーション能力の素地を養うこととする。

小学校高学年

- 小学校高学年において、これまでの先進的な取組の成果・課題を踏まえ、
 - ・高学年においては、中学年から中学校への学びの連続性を持たせながら、4技能を扱う言語活動を通して、より系統性を持たせた指導(教科型)を行う。
 - ・このため、外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うこととする。そのため、より系統性を持たせた体系的な指導を行う教科として位置付けを更に専門的に検討すべき。

- ・その際、単に中学校で学ぶ内容を小学校高学年に前倒しするのではなく、学校内外の影響を踏まえながら、小学校の発達段階に応じた「読むこと」、「書くこと」に慣れ親しみ積極的に英語を読もうとしたり、書こうとしたりする態度の育成を含めた初歩的な運用能力を養うことが考えられる。

例)・馴染みのある定型表現を使って、自分の好きなものや、家族、一日の生活などについて、友達に質問したり、質問に答えたりすることができる。

- ・文構造など、言葉の規則性に関する気付きを意図的に促す指導や、文字の認識、単語への慣れも加えることで、発達段階に応じて、知的好奇心に応えるものとする。現在、中学校での学習内容となっているものとして、例えば、文字や符号の識別は、小学校高学年で扱うことについて検討する。
- ・他教科等と連動した学習内容や言語活動を設定することにより、思考力・判断力・表現力や主体的に学習する態度を身に付けることも重視する。
- ・小学校高学年における指導語彙数は、例えば、「Hi, friends!」を活用したこれまでの成果等を踏まえながら検討し、中学校においてこれらの語彙も含め更なる定着を図ることとする。

（小学校における授業時数）

○ 平成25年12月に文部科学省で取りまとめた「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」では、小学校中学年に活動型を導入し、コミュニケーション能力の素地を養うため、週1～2コマ程度とすることが示されている。

また、高学年では教科型とし、初歩的な英語の運用能力を養い、コミュニケーション能力の基礎を養うのに必要な一定時間（年間70単位時間、週2コマ相当）を確保し、モジュール学習（※）も活用しながら、週3コマ程度を確保することが示されている。

※モジュール学習とは、10分、15分などの時間を単位として取り組む学習形態。

一方、授業時数については、現在の小学校の標準授業時数の全体の中で議論すべきとの指摘があった。また、小学校では、朝学習等において、既に多くのモジュール学習等が行われている状況を踏まえた、より詳細な検討が必要との指摘もあった。

こうした意見も踏まえ、小学校における外国語の教育に係る授業時数や位置付けなどについては、次期の学習指導要領改訂に向けての審議において、教育課程全体の中で更に専門的に検討することが必要である。

○ また、現行では小学校高学年で外国語活動を週1コマ、中学校では教科の英語を週4コマ行うことになっている。今後、小・中学校の学びをつなげていく必要があるが、その差を高学年においてどのように埋めていくのかということが、教科としての目標・内容を検討する重要な点となるとの指摘があった。

（母語の教育と「ことば」への気付き）

○ 小・中学校の目標は「言語や文化への理解」があるが、日本語の「言語」という語は曖昧で、個別の日本語、英語、スワヒリ語、日本手話など個別の言語を表す場合と、「ことば」一般ということを表す場合の両方がある。英語教育においては、「ことば」という視点を導入することによって、国語との連携、母語の効果的運用のための力を育成、外国語の効果的運用に必要な外国語知識を身に付けるための基盤の形成ができることから、

- ・小学校段階で母語を利用して、「ことば」の仕組みや働きに気付かせること
- ・世界に多くの言語があることを理解させる配慮が必要であること
- ・豊かな「ことば」への気付きは母語と外国語の効果的な運用を可能とすること

が重要であり、「ことば」への関心を高めることが必要であるとの指摘があった。

中学校

③ 中学校における改善の方向

- 義務教育終了段階として小学校での学びの連続性を図りつつ、中学校において身近な事柄についてコミュニケーションを図ることができるようにするとともに、高等学校における目標の高度化に向けた基礎を培う観点から、次のような改善を図る。

- ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」などについて、中学校の発達段階に応じた、より具体的に身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

例) 短い新聞記事を読んだり、テレビのニュースを見たりして、その概要を伝えることができる。

- ・英語の教科書の本文や、そこで取り上げられている題材や言語材料を、生徒が関心を持てるような身近な話題と関連付けて指導すべきである。例えば、学校生活における活動、地域行事、生徒の体験、他教科での学習内容等と関連付けて、互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を中心とする授業を行うことを重視する。また、授業を実際のコミュニケーションの場面とする観点から、中学校においても授業を英語で行うことを基本とする。小学校高学年の教科型導入を踏まえ、中学校ではより多くの英語に触れることにより、学習内容の着実な定着を図る。また、コミュニケーションを円滑に図るために必要とされる基本的な文法事項については中学校で一通り活用できるようにする。

- また、中学校では、文法の解説や訳読に偏った授業が一部の学校に見られるとの指摘を踏まえ、生徒が基本的な知識・技能を活用しつつ、話される内容や書かれた内容を的確に理解し、それを基に、思考・判断したことについて、主体的に話したり書いたりするなど互いの考えや気持ちを英語で伝え合う言語活動を展開することが重要であるとの指摘があった。そのため、…扱われている言語材料を、生徒が関心を持てる身近な話題、例えば、他教科の学習内容や、学校生活における活動、地域行事、生徒の経験等と関連付けて扱うなどして、実際の生活において必要な場面を想定した言語活動を取り入れるよう工夫することも必要である。そのためには、生徒が、既習の言語材料を単に「知っている」又は「理解している」だけでなく、繰り返し活用する活動を日頃から展開することが必要である。(略)

- 中・高等学校では、…CAN-DO形式での学習到達目標設定、扱う言語活動の高度化(発表、討論、交渉等)に対応した指導、パフォーマンステストを活用した4技能の総合的な評価方法等について検討する。

また、中学校では小学校の内容、高等学校では中学校の内容との関連を十分留意した指導・評価が行われる必要がある。連携の効果が期待される相互乗り入れの授業、カリキュラムづくりの連携、共通理解を図り相互の効果的な指導計画作成や評価などを行う合同研修などを通して、具体的な指導・評価方法等について検討する必要がある。

(参考)最近の英語教育改革に関する経緯

【文部科学省の動向】

教育再生実行会議

第3次提言

「これからの大学教育等の在り方について」
(H25.5.28)

○ 国は、小学校の英語学習の抜本的拡充(実施学年の早期化、指導時間増、教科化、専任教員配置等)や中学校における英語による英語授業の実施、初等中等教育を通じた系統的な英語教育について、学習指導要領の改訂も視野に入れ、諸外国の英語教育の事例も参考にしながら検討する。国、地方公共団体は、少人数での英語指導体制の整備、JETプログラムの拡充等によるネイティブ・スピーカーの配置拡大、イングリッシュキャンプなどの英語に触れる機会の充実を図る。

第2期教育振興基本計画(H25～29)

第2部今後5年間に実施すべき教育上の方策
～四つの基本的方向性に基づく、8の成果目標と30の基本施策～ 2. 未来への飛躍を実現する人材の養成
(H25. 6. 14閣議決定)

成果目標5(社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成)
※グローバル人材の養成(略)

【成果指標】

<グローバル人材関係>

①国際共通語としての英語力の向上

・学習指導要領に基づき達成される英語力の目標(中学校卒業段階:英検3級程度以上、高等学校卒業段階:英検準2級程度～2級程度以上)を達成した中高校生の割合50%

基本施策16

外国語教育、双方向の留学生交流・国際交流、大学等の国際化など、グローバル人材育成に向けた取組の強化【主な取組】

16-1 英語をはじめとする外国語教育の強化

新学習指導要領の着実な実施を促進するため、外国語教育の教材整備、英語教育に関する優れた取組を行う拠点校の形成、外部検定試験を活用した生徒の英語力の把握検証などによる、戦略的な英語教育改善の取組の支援を行う。また、英語教育ポータルサイトや映像教材による情報提供を行い、生徒の英語学習へのモチベーション向上や英語を使う機会の拡充を目指す。大学入試においても、高等学校段階で育成される英語力を適切に評価するため、TOEFL等外部検定試験の一層の活用を目指す。

また、小学校における英語教育実施学年の早期化、指導時間増、教科化、指導体制の在り方等や、中学校における英語による英語授業の実施について、検討を開始し、逐次必要な見直しを行う。教員の指導力・英語力の向上を図るため、採用や自己研鑽等での外部検定試験の活用を促すとともに、海外派遣を含めた教員研修等を実施する。

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」
(H25.12.13文科省発表)

初等中等教育段階からグローバル化に対応した教育環境づくりを進めるため、小学校における英語教育の拡充強化、中・高等学校における英語教育の高度化など、小・中・高等学校を通じた英語教育全体の抜本的充実を図る。

1. グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方

○小学校中学年:活動型

・週1～2コマ程度・コミュニケーション能力の素地を養う・学級担任を中心に指導

○小学校高学年:教科型

・週3コマ程度(「モジュール授業」も活用)
・初歩的な英語の運用能力を養う
・英語指導力を備えた学級担任に加えて専科教員の積極的活用

○中学校

・身近な話題についての理解や簡単な情報交換、表現ができる能力を養う
・授業を英語で行うことを基本とする

○高等学校

・幅広い話題について抽象的な内容を理解できる、英語話者となる程度流暢にやりとりができる能力を養う
・授業を英語で行うとともに、言語活動を高度化(発表、討論、交渉等)

※小・中・高を通じて一貫した学習到達目標を設定することにより、英語によるコミュニケーション能力を確実に養う

※日本人としてのアイデンティティに関する教育の充実(伝統文化・歴史の重視等)

英語教育の在り方に関する有識者会議 (H26.2～26.9)

今後の英語教育の改善・充実方策について 報告
～グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言～(H26.9末)

改革1. 国が示す教育目標・内容の改善

○ 学習指導要領では、小・中・高を通して

- 1.各学校段階の学びを円滑に接続させる、
- 2.「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標(4技能に係る具体的な指標の形式の目標を含む)を示す(具体的な学習到達目標は各学校が設定)。

小学校:

・中学年から外国語活動を開始し、音声に慣れ親しませながらコミュニケーション能力の素地を養うとともに、ことばへの関心を高める。
・高学年では身近なことについて基本的な表現によって「聞く」「話す」ことに加え、「読む」「書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。学習の系統性を持たせるため教科として行うことが求められる。
・小学校の英語教育に係る授業時数や位置づけなどは、今後、教育課程の全体の議論の中で更に専門的に検討。

中学校:

・身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。文法訳読に偏ることなく、互いの考えや気持ちを英語で伝え合うコミュニケーション能力の養成を重視する。

高等学校:

・幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う言語活動を豊富に体験し、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりするコミュニケーション能力を高める。

中央教育審議会

「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について(諮問)」H26文科初第852号(H26.11.20)

○ グローバル化する社会の中で、言語や文化が異なる人々と主体的に協働していくことができるよう、外国語で躊躇(ちゅうちよ)せず意見を述べ他者と交流していくために必要な力や、我が国の伝統文化に関する深い理解、他文化への理解等をどのように育んでいくべきか。

特に、国際共通語である英語の能力について、文部科学省が設置した「英語教育の在り方に関する有識者会議」の報告書においてまとめられた提言も踏まえつつ、例えば以下のような点についてどのように考えるべきか。

・小学校から高等学校までを通じて達成を目指すべき教育目標を、「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、4技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示すこと

・小学校では、中学年から外国語活動を開始し音声に慣れ親しませるとともに、高学年では、学習の系統性を持たせる観点から教科として行い、身近で簡単なことについて互いの考えや気持ちを伝え合う能力を養うこと

・中学校では、授業は英語で行うことを基本とし、身近な話題について互いの考えや気持ちを伝え合う能力を高めること

・高等学校では、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う能力を高めること

【背景】

「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」<抄>(平成25年6月14日)

○(略)また、「鉄は熱いうちに打て」のことわざどおり、初等中等教育段階からの英語教育を強化し、高等教育等における留学機会を抜本的に拡充し、世界と戦える人材を育てる。

④世界と戦える人材を育てる

(i)初等中等教育段階からの英語教育を強化する。このため、小学校における英語教育実施学年の早期化、教科化、指導体制の在り方等や、中学校における英語による英語授業実施について検討する。

⑦グローバル化等に対応する人材力の強化

・小学校における英語教育小学校5、6年生における外国語活動の成果を今年度中に検証するとともに、実施学年の早期化、指導時間増、教科化、指導体制の在り方等や、中学校における英語による英語授業の実施について、今年度から検討を開始し、逐次必要な見直しを行う。

「日本再興戦略」改訂2014-未来への挑戦-<抄>(平成26年6月24日)

○(略)また、初等中等教育段階からの英語教育の強化のため、小学校英語の早期化等を行う拠点への支援や教員の英語指導力向上のための取組を開始した。

○小学校における英語教育実施学年の早期化等に向けた学習指導要領の改訂を2016年度に行うことを目指し、指導体制の強化、外部人材の活用促進など、初等中等教育段階における英語教育の在り方について検討を行い、本年秋を目途に取りまとめる。学校現場等における外国人活用、抜本的強化を図り、実践的な英語教育を実現させる。あわせて、在外教育施設における質の高い教育の実現及び海外から帰国した子供の受入れ環境の整備を進める。

改善の方向（小・中・高等学校の連携）

英語教育の在り方に関する有識者会議「今後の英語教育の改善・充実方策について」（抜粋）（H26.9）

現状

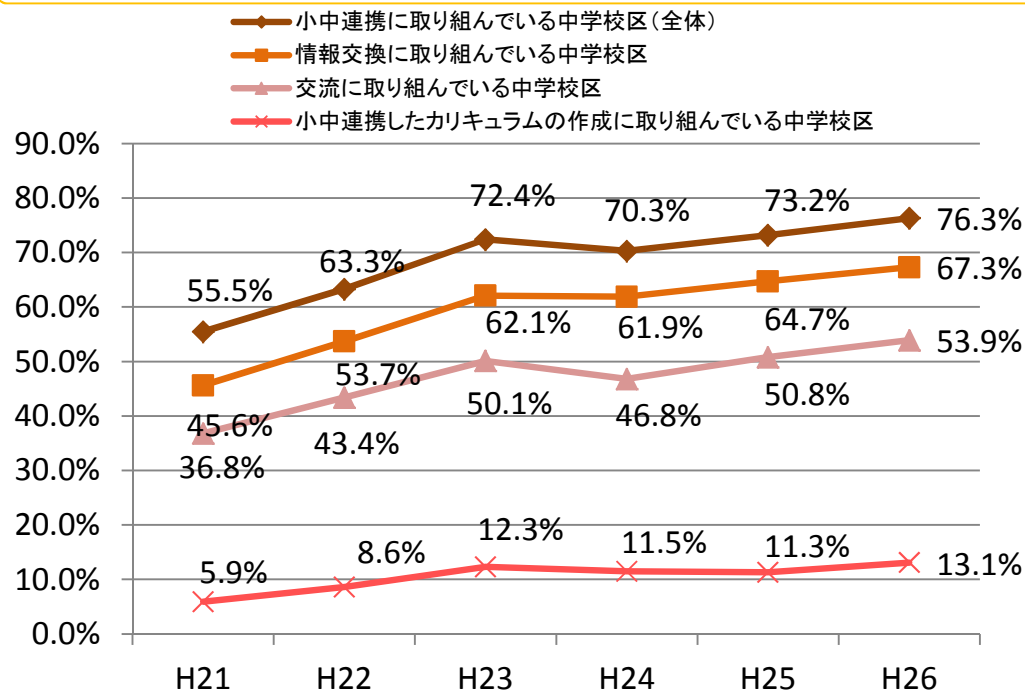
- 各学校種での指導改善は進んでいるものの、学校間の接続（小中連携、中高連携）が十分とは言えず、進学後に、それまでの学習内容を発展的に生かすことができていない状況が多い。

改善の方向

- 国として、これまでの取組を検証しつつ、小・中・高等学校を通して各学校段階の学びを円滑に接続させるとともに、学校種ごとの教育目標を、技能ごとに「英語を使って何ができるようになるか」という視点から一貫した教育目標（4技能に係る具体的な指標の形式の目標を含む）を示す。これにより、各学校が、具体的な学習到達目標を設定し、英語力に関する達成状況を明確に検証できるようにする。
- 連携の効果が期待される相互乗り入れの授業、連携したカリキュラムづくりの連携、共通理解を図り相互の効果的な指導計画作成や評価などを行う合同研修などを通して、具体的な指導・評価方法等について検討する必要がある。

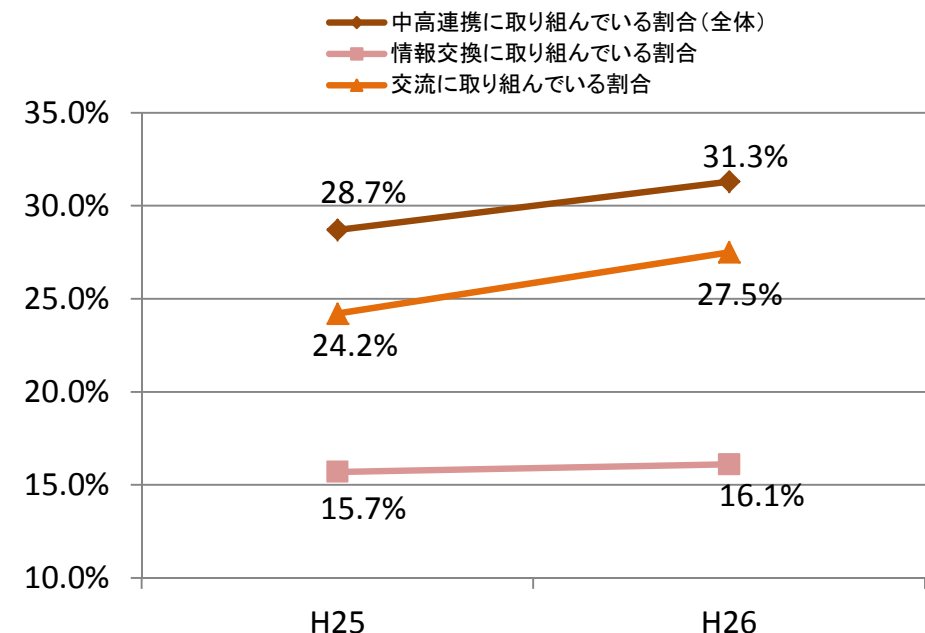
小中連携の状況

- 平成26年度において、小中連携に取り組んでいる中学校区の割合は76.3%、小中連携したカリキュラムの作成に取り組んでいる中学校区の割合は13.1%。



中高連携の状況

- 平成26年度に中高連携に取り組む予定の割合は31.3%で、平成25年度の28.7%から、2.6ポイント上昇している。



データ出典：英語教育実施状況調査（H26）

小・中・高等学校を通じた目標及び内容の主なイメージ(「英語教育の在り方に関する有識者会議報告書(H26年9月)」抜粋)

下線は、現行と異なる部分

	小学校高学年		中学校	
教科等の目標	外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、<u>身近で簡単なことについて外国語の基本的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。</u> <ポイント> ・身近で簡単なこと ・コミュニケーション能力の基礎		外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を<u>図るとともに、身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。</u> <ポイント> ・身近な話題 ・理解、表現、情報交換できるコミュニケーション能力	
英語等の目標	<英語> (1) <u>身近で簡単なことについて話される初歩的な英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。</u> (2) <u>身近で簡単なことについて、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。</u> (3) <u>アルファベットや単語に慣れ親しみ、英語を読むことに対する興味を育てる。</u> (4) <u>アルファベットを書くことに慣れ親しみ、英語を書くことに対する興味を育てる。</u> <ポイント> ・身近で簡単なこと ・初歩的な英語		<英語> ○ <u>身近な話題について話される英語を聞いて話し手の意向などを理解できるようにする。</u> ○ <u>身近な話題について、英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。</u> ○ <u>身近な話題について書かれた英語を読んで書き手の意向などを理解できるようにする。</u> ○ <u>身近な話題について、英語を用いて自分の考えなどを書くことができるようにする。</u> <ポイント> ・身近な話題 ・自分の考えなどの表現 ・相手の意向などの理解	
指標形式の目標	「話すこと」(発表) Spoken Production 【SP】 【SP1】自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手を意識しながら初歩的な英語で伝えることができるようにする。 【SP2】与えられたテーマについて初歩的な英語で簡単なスピーチをすることができるようにする。	「話すこと」(やりとり) Spoken Interaction 【SI】 ○聞いたことに相づちをうったり、感想を言ったりすることができるようにする。	「話すこと」(発表) Spoken Production 【SP】 【SP1】自分の考えや気持ち、事実などを、聞き手を意識しながら英語で伝えることができるようにする。 【SP2】自分の意見や主張を基に、与えられたテーマについて短いスピーチをすることができるようにする。	「話すこと」(やりとり) Spoken Interaction 【SI】 ○聞いたり読んだりしたことなどについてほかの人と話し合い、理解したことを確認したり、意見を伝え合ったりすることができるようにする。
	<ポイント> ・相手を意識 ・初歩的な英語		<ポイント> ・「発表」: 小学校からの接続 ・「やりとり」: 話し合いと伝え合い	

次期学習指導要領「外国語」における国の指標形式の主な目標（イメージ）案

- 国の目標では、小・中・高等学校の学びを円滑に接続させる、②「英語を使って何ができるようになるか」という観点から一貫した教育目標を示す。
- 学校では、英語を使って何ができるようになるかという観点からCAN-DO形式の学習到達目標を設定し、それに基づく指導と学習評価（筆記テストのみならず、スピーチ、インタビューテスト、エッセー等のパフォーマンス評価、観察等）

※CEFRとは、シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集のために、透明性が高く分かりやすく参照できるものとして、20年以上にわたる研究を経て、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表。

校種	科目（単位数） ・イメージ	CEFR レベル	聞くこと	読むこと	話すこと （やり取り）	話すこと （発表）	書くこと
高等学校	英語コミュニケーションⅢ 議論Ⅲ	B1 ～	・長い会話や講義を理解したり、テレビのニュース、時事問題の番組の大部分を理解できるようにする。	・長い会話や講義を理解したり、テレビのニュースや時事問題の番組の大部分を理解できるようにする。	・流暢に自然に会話し、やり取りしたり、身近な話題の議論に積極的に自分の意見を説明したりできるようにする。	・社会的な問題など幅広い話題について詳細な説明をしたり、自分の見方を説明したりできるようにする。	・幅広い話題について、詳細な説明文を書いたり、エッセイ等で情報を伝え自分の考えを書くことができるようにする。
	英語コミュニケーションⅡ 議論Ⅱ		・ゆっくりはっきりと話されれば、時事・社会問題のテレビ番組の要点を理解できるようにする。	・身近で社会的な話題や自分のことについてよく使われる語彙や表現で書かれたことを理解できるようにする。	・趣味、仕事、旅行、最近の出来事や、関心事について、準備なしで会話に入ることができるようにする。	・簡単な方法で語句をつないで、自分の経験や出来事、夢や希望を語ることができるようにする。	・身近で個人的に関心のある話題について、つながりのある文章を書くことができるようにする。
中学校	英語コミュニケーションⅠ 議論Ⅰ	A2	・学校や身近な地域など自分に関連したことについて、よく使う語彙や表現で話されることができるようになる。	・身近な話題に関して平易な英語で書かれた短い説明を読み、概要や要点を理解できるようにする。	・学校や身近な地域などの日常的な話題について考えや気持ちを伝え合ったり、相手の話に応じることができるようになる。	・身近な人、学校、地域などについて簡単な言葉で一連の語句や文を使って説明できるようにする。	・身近な事柄（自分、学校、地域など）について、簡単な語句や文や用いて、短い説明文を書くことができるようになる。
	英語 （中学校での学習における活用を通じた定着）	A1	・ゆっくりはっきりと話されれば、身近なことについて基本的な表現で話されることを理解できるようにする。	・身近なよく知っている単語、単純な文を理解できるようにする。	・身近なことや出来事について、簡単な表現を用いて友達に質問したり答えたりすることができるようにする。	・身近なことや、住んでいるところについて、簡単な語句や文を使って表現できるようにする。	・新年の挨拶やメッセージなど短い簡単な葉書を書くことができるようになる。
小学校	英語（教科型） （小学校での学習の定着を含む）		・ゆっくりはっきりと話されれば、自分や相手の身近なことについて簡単な英語で話されることを理解することができるようにする。	・アルファベットの文字を識別して正しく読むことができるようになる。	・身近なことについて、簡単な単語や表現を用いて友達に質問したり答えたりすることができるようにする。	・身近なことについて、相手意識を持って、自分の考えや気持ちを話すことができるようになる。	・例文を参考にしながら、慣れ親しんだ単語や文を正確に書くことができるようになる。
	英語（活動型） （慣れ親しみから「気付き」へ）	(Pre-A1)	・ゆっくりはっきりと繰り返されれば、英語による短い簡単な指示や挨拶を理解することができるようにする。	・アルファベットの大きな文字・小文字を識別できるようにする。	・定型表現を用いて、簡単な挨拶を英語ですることができるようにする。	・聞き手に配慮しながら、自分のことについて簡単な英語で話すことができるようになる。	・アルファベットの大きな文字・小文字を活字体で正確に書くことができるようになる。

4技能
「聞く」「話す」
「読む」「書く」

2技能
「聞く」「話す」

4技能5領域で統合的な活動を行うことによって求められる英語力を身に付ける

次期学習指導要領の5年生の年間指導計画のイメージ(秋以降、専門的に検討予定)

単元名	コミュニケーションの場面	言語材料	目標例
Lesson 1 どうぞよろしく	自己紹介	hello, good-bye, see you. 等	・自己紹介をしたり、相手の自己紹介を聞いて反応しようとする。 ・ALTの自己紹介を聞いて自分のことを簡単な英語で紹介することができる。 ・名前を正確に英語で書くことができる。
Lesson 2 修学旅行の準備をしよう	学校の学習・活動	乗り物 What do you have? I have ～. 等	・身の回りの物をヒントを手掛かりに読もうとしたり、英語で正確に書き写そうとする。 ・何を持っているか尋ねたり、答えたりすることができる。
Lesson 3 アルファベットには音がある	学校での学習や活動	アルファベットの文字 身の回りの物	・アルファベットの音を言うことができる。 ・アルファベットには読み方と音があること、日本語と英語では文字と音の関係が違うことに気づく。(カタカナ、ローマ字含む)
Lesson 4 世界旅行に行こう	学校での学習や活動	国名、動作 Where do you want to go? I want to go to ～. 等	・行きたい国名を正確に書き写したり、簡単な英語で説明できる。 ・世界の国名を読んだり書いたりして、様々な文化があることに気付く。
Lesson 5 ツアーコンダクターになろう	学校での学習や活動	国名、地名、動作 Where do you want to go? You can see/eat ～ 等	・英語で相手に対し道案内ができる。 ・行きたい国名を正確に書き写して説明できる。
Lesson 6 夢宣言	家庭での生活・仕事	職業名 What do you want to be? I want to be ～.	・世界には様々な夢をもつ同年代の子どもがいることを知る。 ・どのような職業に就きたいか尋ねたり、答えたりできる。 ・職業名を正確に書き写すことができる。
Lesson 7 思い出アルバムを作ろう	学校での学習や活動	行事名 様子を表す語 My favorite event is ～ Because it is ～.	・思い出の行事について書いて積極的に説明したり、反応して聞いたりすることができる。 ・行事名を正確に書き写すことができる。
Lesson 8 A Letter to …	学校での学習や活動	動物 ～ is chasing ～. I like/play/have/ 等	・好きなものや、日常生活について語順を替えて表現することができる。 ・英語と日本語とでは語順が違うことに気付く。
Lesson 9 中学校ってどんなところ？	学校での学習や活動	時刻、教科名、部活動名 What time do you get up?	・まとまった話を聞いたり、相手意識を持って発表したりしようとする。 ・興味のある教科など身近なことを正確に書き写して伝えようとする可以尝试。



「モジュール学習(帯学習)」対応可能活動		補助教材の活用
① 関係 アルファベットの文字の認識を深める活動 ①読み方を繰り返し言う。 例:かるた取り、アルファベットゲーム、など ②四線上に繰り返し書く。 ③アルファベットチャンツを言う	授業の中で新たに扱う「単語」や「表現」などの「繰り返し学習」を行うことを通じて定着を図る ↑ ゲーム等を通じて繰り返し	アルファベット大文字・小文字カード
② 関係 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気づきを促す活動 ④小文字を四線上に繰り返し書く。		ワークシート など
② 関係 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気づきを促す活動 ①音、単語の認識を深める: ②小文字を四線上に繰り返し書く、正確に書く。		アルファベットジングル(デジタル教材) ワークシート など
効果的なモジュール学習(帯学習)の時間をどの程度設定するかについて、専門的見地からの検討を経て、年内～年明けに結論		
各単元の内、まとまりのある学習を行った上で、短時間学習活動の「繰り返しの学習」を通して、アルファベットの文字、語いや表現の定着を図る		

1

外国語活動教材の現状と高学年教科教材の在り方

(「英語教育の在り方に関する有識者会議審議(平成26年9月26日)」報告)

現状・課題

- 小学校における外国語活動においては、国により作成された小学校外国語活動教材例、「Hi, friends!」が希望する約2万校の学校に配布され、地域、学校、学級の実態に合わせて工夫・活用がなされている。また、児童の多くが外国語活動の授業や外国語学習に対して肯定的であり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度が育成されてきている。
- 中1 対象による調査では、外国語活動の授業で、「もっと学習しておきたかったこと」の回答の割合として、「英語の単語を読むこと」が77.9%、「英語の単語を書くこと」が81.7%、「英文を読むこと」が77.6%、「英文を書くこと」が78.6%であり、音声中心の活動に比べ、10ポイントほど高い数値である。小学校の外国語活動で音声中心に学んだことが、中学校での段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと、発音と綴(つづ)りの関係の学習や文構造の学習に課題があるなどの指摘があった。
- このような状況を踏まえ、小学校の外国語活動が導入されて一定の成果を上げているものの、中学校での学習への円滑な接続を考えると、小学校高学年段階において、文字の扱いや文構造への気付きなど、中学校との接続を意識した指導に有効な教科書・教材が必要である。

今後の方向性

- 先進的な取組も含めたこれまでの外国語活動の成果・課題を踏まえ、小学校中学年では、発達段階に応じた外国語活動に必要な教材の開発を行う。小学校高学年では、教科化に伴って教科書の整備が必要となる。また、教科化され、教科書が整備されるまでの間、国において、中学校との円滑な接続を意識した補助教材、及び新たな教材を作成する。
- 補助教材については、アルファベット文字の認識、日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴、文構造への気付きを促す指導ができるようなものとし、高学年における外国語の教科化において求められる教材等として、国の「英語教育強化地域拠点事業」における研究開発校等において、平成27年度より試行的に活用しながら、その効果を検証する。さらに、その検証結果を、小学校高学年の教科化に向け、新学習指導要領移行期に各学校において活用することを想定した新たな教材開発に生かすものとする。

H27・28度「英語教育強化地域拠点事業」地域の小学校における教科化に向けた実践・検証(イメージ)

小学校5・6年生の外国語活動:週1コマ
(Hi, friends!2のイメージ)

小学校5・6年生の教科型の授業:週2～3コマ程度
(Hi, friends!+補助教材+独自教材)

単元名	題材	目標例
Lesson 1	文字・言語	積極的に数字やアルファベット、世界の文字について尋ねたり答えたりする。
Lesson 2	行事・月日	<u>世界の行事や習慣と、日本の祭りや行事を月ごとに取り上げ、友達と積極的に英語で話す。</u>
Lesson 3	スポーツ・動作	スポーツなどできることを積極的に友達と尋ねたり答えたりする。
Lesson 4	建物・道案内	積極的に行き方を尋ねたり道案内をしったりしようとする。
Lesson 5・6	世界の国々・生活	自分の思いが伝わるように世界の国、生活、時差などを発表したり、友達の発表を積極的に聞いたりする。
Lesson 7	日本の童話・世界の童話	英語で物語の内容を伝えようとする。まとまった話を聞いて内容がわかり、場面にあった台詞を考えて言えるようにする。
Lesson 8	職業・将来の夢	どんな職業につきたいか友達に尋ねたり答えたりする。世界の同年代の子供たちの夢を知り、自分の「夢宣言」をする。

新たな目標:身近なことについて基本的な表現によって
「聞く」「話す」に加え、「読む」「書く」の態度の育成を
含めたコミュニケーション能力の基礎を養う

教科化に向けて、26年度中に補助教材を作成・配布

- ◎ アルファベットの文字や単語などの認識
 - ◎ 日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き
 - ◎ 語順の違いなど文構造への気付き
 - 自信をもって英語で積極的に「聞く」「話す」ことができ、「読む」「書く」ことへの興味を育てるようにする。
- ※小学校段階の語彙数は400程度を想定しているが、今後、拠点地域の研究開発校などにおいて実証し、中央教育審議会において検討

◎ 題材の充実(例)

日本の行事に加え、地元の伝統行事、文化財、地場産物など、英語を通じて「ふるさとの魅力」に興味を持ち、自分なりに英語で説明できるようにする。



概要

教育再生実行会議 第三次提言
(H25. 5. 28)

第2期教育振興基本計画
(H25. 6. 14)

グローバル化に対応した
英語教育改革実施計画
(H25. 12. 13)

英語教育の在り方に関する
有識者会議 報告
(H26. 9. 26)

- 〈今後の英語教育の方向性〉
- ・小・中・高を通じて「英語を使って何ができるようになるか」という観点から、四技能に係る一貫した具体的な指標の形式で示すこと
 - ・小学校では、中学年から外国語活動を開始し音声に慣れ親しませるとともに、高学年では、学習の系統性を持たせる観点から教科として行う、中学校では、授業は英語で行うことを基本とする、高等学校では、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う能力を高めること
 - ・これを踏まえ、先進的な取組を支援するとともに、その成果を今後の英語教育の在り方に関する検討に生かす。※ 18地域 → 25地域

文部科学省

- ・研究開発の方向性の設定
- ・英語教育強化地域の選定・指定
- ・研究開発に関する各種経費支援
- ・定数加配
- ・収集すべき定量的データの検討
- ・英語教育強化地域における具体的な取組や評価の在り方について検討・実施
- ・連携協議会の開催
- ・その他、英語教育強化地域に対する支援・指導・助言 等

管理機関
(教育委員会、学校法人、国立大学法人)

進捗管理 指導・助言

協力

大学等

助言・援助等

英語教育強化地域拠点

...それぞれの研究開発課題を实践

小・中・高等学校の連携



小学校



中学校



高等学校

高大接続研究

研究開発課題(例)

- (1) 小・中・高等学校を通じた目標の設定
- (2) 小学校では、中学年から外国語活動開始及び高学年での教科化
- (3) 中学校では、授業は英語で行うことを基本とする
- (4) 高等学校においては、幅広い話題について発表・討論・交渉などを行う能力を高めること
- (5) 小中・中高の学びが円滑に行われるための取組 等

検証すべき取組・データ(例)

- 英語運用能力に関する評価研究
- 小学校の新たな外国語教育における補助教材を活用した研究
- 英語学習に対する関心・意欲
- 他教科等への影響 等

新学習指導要領の
全面実施(小:H23、
中:H24、高:H25)

日本再興戦略(H25.6.14閣議決定)
・英語教育の強化
・小学校英語等に関する検討

教育再生実行会議第三次提言(H25.5.28)
・小学校英語の抜本的拡充等について提言

第2期教育振興基本計画
(H25.6.14閣議決定)
求められる英語力の成果指標明示

○国が外部専門機関(外国の公的機関等)と連携して以下を対象とした指導力向上事業を実施【600名程度(H26は500名)】

- ・小・中・高等学校の学校英語教育の推進リーダー
- ・外国語指導助手(ALT)リーダー

○都道府県・政令指定都市教育委員会が外部専門機関(国内外の公的機関、大学等)と連携して指導力向上事業を実施

※域内の英語教育改善プランの策定、明確な目標設定及び目標管理

【取組例】

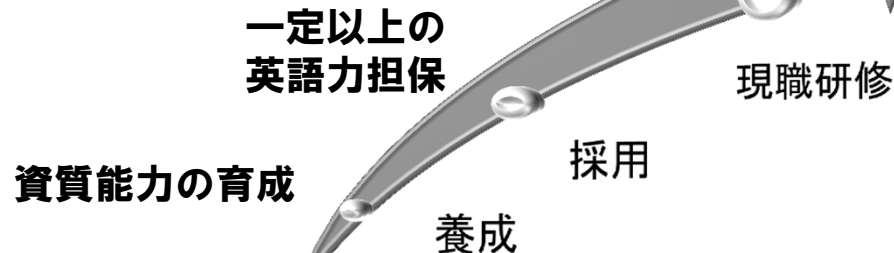
- ・国の指導力向上研修を修了した推進リーダーによる研修
- ・域内の大学等との連携 ・海外・大学等からの講師招聘 等

＜英語教育推進リーダーの役割(例)＞

- ①各地で中核となる小学校教員や中・高等学校の英語担当教員の研修講師
- ②研究会、研究授業等における講師、助言者
- ③校内研修、授業・評価の改善のための日常的な指導・助言 等

平成26年度より5年間程度をかけ、小学校中核教員、中・高等学校の英語教員の指導力向上を図る

指導力の向上



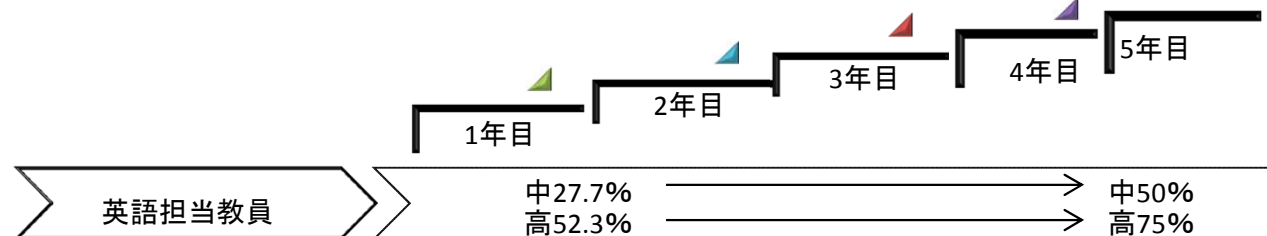
◆国及び都道府県等による目標

【成果指標】

- ・生徒の英語による言語活動時間の割合
- ・教員の英語使用状況の割合
- ・求められる英語力を有する教員の割合
- ・パフォーマンス評価実施状況 等

※ 都道府県等は年次目標を設定。

◆ 国及び都道府県による目標設定 →
フォローアップ → 改善へ



※求められる英語力(第2期教育振興基本計画H25.6):英語担当教員 英検準1級程度以上

小学校英語の早期化・教科化、中・高等学校英語の充実のための 教員養成・研修の充実に向けた施策等 (イメージ)(案)

26年度

27年度

28年度

29年度

30年度

31年度

32年度

33年度

34

35

◆「英語教育の在り方
に関する有識者会議」
26年9月：報告

中教審・教育課程
特別企画部会

学習指導
要領改訂

次期指導要領を
段階的に先行実施

全面实施

◆外部専門機関と連携した英語指導力向上事業（26～30年）

- ⇒①国の「英語教育推進リーダー」養成
②都道府県による研修実習
※次期学習指導要領の改訂に向けた研修内容へ改善・充実

現職教員の研修改善を継続

◆小学校教員の中学英語免許併用を促進、コア・カリキュラムを「免許法認定講習」へ活用

◆「初任研」「10年研」「免許更新講習」などの研修等へコア・カリキュラムを活用

◆ 英語教育の教職教育
コア・カリキュラム
開発・策定（27年～）
・調査研究・授業実証
・シンポジウム開催 等
・成果を順次周知

改善後の免許取得者を
順次採用・配置

◆各大学による教職課程の改善・充実の取組に活用

活用促進

小学校外国語における指導者の役割(イメージ)

英語教育の在り方に関する有識者会議(26年9月)[参考資料]

専科指導者の役割 ①

(学級担任を持ちながら高学年の外国語授業を実施)

- ①年間指導計画立案(目標、指導内容、活動、評価方法)
他教科等と連携した授業実施
- ②教材準備
- ③児童に自ら発話するよう働きかけ
児童のつまずきに気づき、適切なサポート
- ④様々な国の習慣や文化等への理解を促す
- ⑤児童のコミュニケーションを図ろうとする関心・
意欲・態度や国際理解の面を評価

専科指導者の役割 ②

(小学校教員で担任を持たず高学年の外国語授業を実施)

- ①年間指導計画立案(目標、指導内容、活動、評価方法)
- ②教材準備
- ③児童に自ら発話するよう働きかけ
- ④様々な国の習慣や文化等への理解を促す
- ⑤児童のコミュニケーションを図ろうとする関心・
意欲・態度や国際理解の面を評価

※小学校高学年:教科型

【現状】小学校における英語の専科教員:5年:5.8%,6年6.2%
小学校教員における中学校の英語免許状保有者:4.1%(約1.6万人)
※他の教科と持ち合いで時間を確保・調整

①の例(岐阜県高山市)

- ・中学校英語免許を持つ教員が学級担任を持ちながら5,6年生の3学級を担当。理科、社会、音楽などは他の専科教員が持ち合いで調整。

②の例(島根県江津市)

- ・中学校英語免許を持つ教員が担任を持たず、5,6年生の9学級の外国語活動と音楽を担当。



連 携

学級担任の役割

- ・児童のつまずきに気づき、適切なサポート
- ・年間指導計画立案支援、及び他の教科等と連携した授業実施



チーム・
ティーチング

学級担任の役割

- ①年間指導計画立案 (目標、指導内容、活動、評価方法)
- ②ALT等と協力して教材等を準備、授業を進行
- ③児童のつまずきに気づき児童が自信を持って発話できるよう、きめ細かくサポート
- ④児童のコミュニケーションを図ろうとする関心・
意欲・態度や国際理解の面を評価

外国語指導助手(ALT) または 英語に堪能な地域人材)の役割

- ①教員と協力して教材を準備
- ②様々な国の習慣や文化等を伝える
- ③ネイティブとして話し聞かせる
- ④児童に自ら英語で発言するよう働きかけ
- ⑤評価への協力 等

※現状として、⑤は全てのALT等が対応可能ではない。

現状:ALT等の活用時数 56%

12000人(うちJET:約4000人) 22

※小学校中学年:活動型

英語指導力を
向上し役割を拡大



主に教科型

主に活動型

4. 改革の具体的な方向性

(1) 教員の養成・採用・研修を通じた改革の具体的な方向性

① 新たな教育課題への対応

・英語教育の充実のため、次期学習指導要領改訂の検討状況も踏まえつつ、国は外部専門機関等との連携により、各地域の指導者となる「英語教育推進リーダー」の養成を推進する必要がある。各地域では、リーダー等が教育委員会と大学等が連携して実施する研修の企画・運営への参画、学校内外の研修講師、公開授業の実施や、地域の英語担当教員に対する指導・助言を行う等の役割を担い、小・中・高校の一貫した英語教育や、小学校の英語教育の専門性向上等を推進することが期待される。具体的には、「英語教育推進リーダー」と英語教育担当指導主事等が中心となって、小・中・高校の連携による研修の実施や、各学校を訪問し、小・中・高校の接続を意識した指導計画の作成や「～することができる」という形で表したCAN-DO形式での学習到達目標を活用した授業改善などについて指導・助言を行うことなどが期待される。

また、このような地域のリーダーの活動が可能となるような体制整備が必要である。さらに、小学校教員が教科化に向けた専科指導や小・中・高校の一貫した学びの接続に留意した指導に当たることが可能となるよう必要な研修を充実するとともに、「免許法認定講習」の開設支援等による小学校免許状と中学校英語免許状の併有を促進する必要がある。

(略)

・英語教育については、小学校における英語の教科化への対応や中学・高等学校の「話す」「書く」の指導力の向上を図るため、大学、教育委員会等が参画して養成・研修に必要なコアカリキュラム開発を行い、課程認定の際の審査や各大学による教職課程の改善・充実の取組に活用できるようにするとともに、小学校中学年の外国語活動導入と高学年の英語の教科化に向け、「小学校英語」に関する科目を教職課程に位置づけるための検討を進めるべきである。

(4) 教員養成に関する改革の具体的な方向性

○ 特に、国立の教員養成を目的とする大学・学部は、地域のニーズを踏まえつつ、4(1)③の新たな教育課題や以下に求められる課題に対応した取組を率先して実施することにより、国立大学に置かれる意義・目的を明確にするとともに、他大学・学部におけるモデルを提示して、その取組を普及・啓発することが重要である。具体的には、「第3期中期目標期間における国立大学法人運営費交付金の在り方に関する検討会」の審議のまとめにおいて重点配分の評価指標の例として示された「人材育成や地域課題を解決する取組などを通じて地域に貢献する取組」の評価指標例の一つとして「地域教育（初等中等教育、職業教育、生涯学習等）への貢献状況」が取り上げられているが、このような取組として、アクティブ・ラーニングの充実、ICTの利活用、道徳教育、英語教育、特別支援教育の充実などの初等中等教育における新たな教育課題に対応するための教員養成や教員研修の支援などの取組が考えられることから、各大学においては積極的にこれらの取組を進めていくことが求められる。また、教員養成学部を有する私立大学等についても、前述の教員育成協議会（仮称）に参画するなど、地域の教育委員会と連携の下、新たな課題等に対応した教員養成・研修を一体的に行うことを検討する必要がある。

(5) 教員免許制度に関する改革の具体的な方向性

① 中学校及び高等学校の教員免許状所有者による小学校での活動範囲の拡大

○ 本年6月に学校教育法等の一部を改正する法律が制定され、義務教育学校が平成28年4月より導入されることが予定されており、これを契機として、全国的に小中一貫教育の取組が一層進むことが予想される。また、小学校における英語教育のさらなる充実などが検討される中、教科に関する高い専門性を持つ中学校等の教員を小学校として活用しやすくするため、教科等に加え学級担任も可能にするよう制度改正を行うことが必要である。

○ なお、本措置により中学校等の教員を小学校又は義務教育学校の前期課程の教員として配置する場合には、任命権者等は小学校における組織、教育内容、学級運営等に関しあらかじめ研修を行うよう法令上措置すべきである。

中央教育審議会 初等中等教育分科会 チームとしての学校・教職員の在り方に関する作業部会 チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について（中間まとめ）（英語関係部分抜粋）

3. 具体的な改善方策

(2) 専門性に基づくチーム体制の構築

② 教員以外の専門スタッフの参画

ク 英語指導を行う外部人材と外国語指導助手

(ALT: Assistant Language Teacher)等

(活用状況等)

小学校等における外国語指導助手や外国語が堪能な地域人材による指導は、教員とのチーム・ティーチングによるコミュニケーション活動や、教材作成支援など、授業等において、教員を支援する重要な役割を担っている。

公立学校の外国語指導助手の配置実績は、全体で15,475人となっており、そのうち、JETプログラム*2による外国語指導助手は4,093人となっており、所要の地方財政措置が講じられている（平成26年度文部科学省「英語教育実施状況調査」）。

(成果と課題等)

ALTについては、教員が多忙のため授業準備のために必要なALTとの打ち合わせ時間がないこと、活用の状況に地域差があるなどの課題も踏まえつつ、次期学習指導要領の改訂に向けて、ALTの質・量ともに確保することが急務である。

特に、小学校におけるALTについては、学級担任と外部人材の連携について、それぞれの役割を明確にしつつ、適切かつ適正なチーム・ティーチング等が行われるための体制整備の充実を図っていく必要がある。

また、小学校高学年における英語の教科化に当たっては、専門性を有する適切な人材に特別免許状を積極的に授与し活用することや、英語が堪能な地域人材、英語担当教員の退職者等を非常勤講師として活用するなど、地域の実情に応じた指導体制を充実させることが重要である。

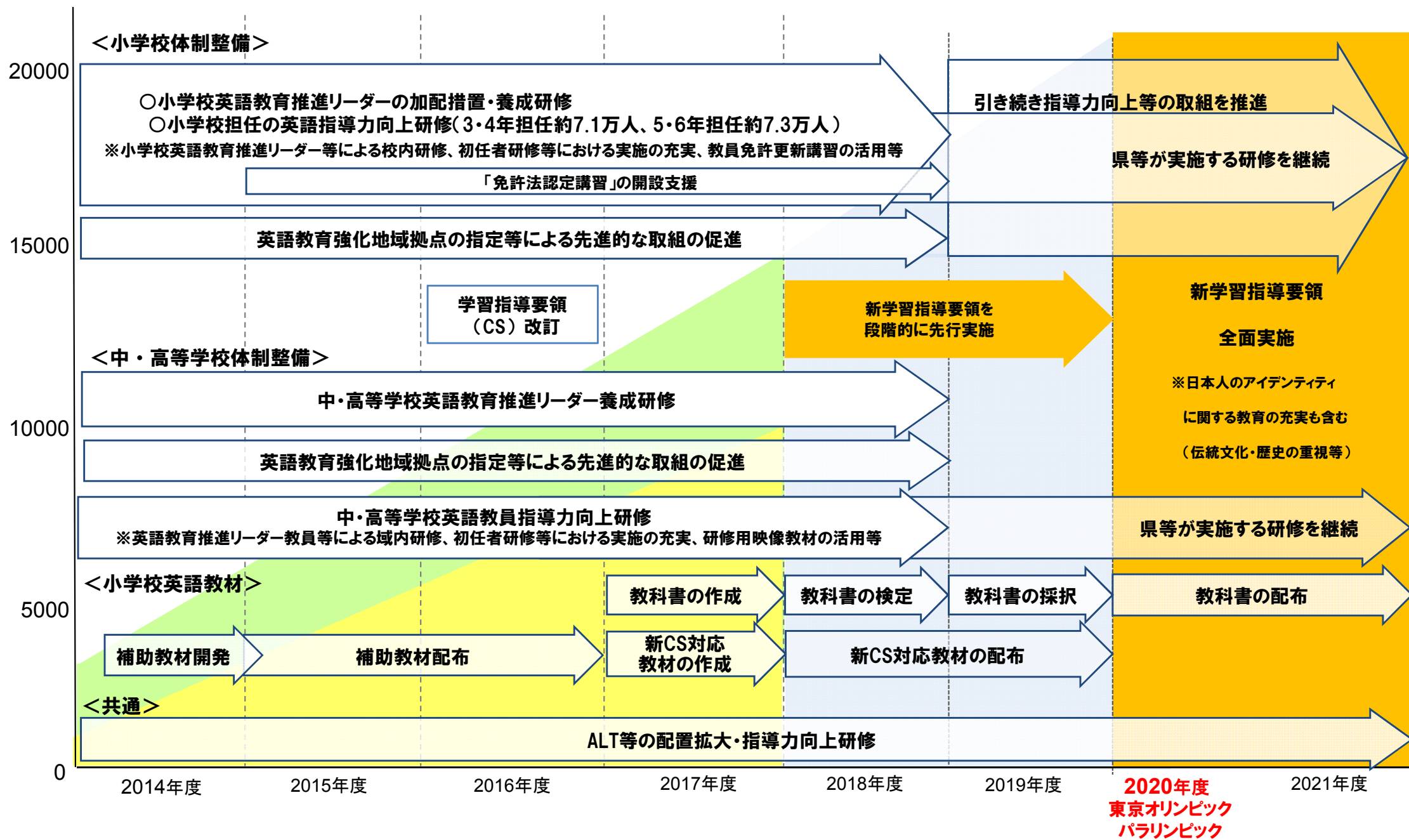
今後、外国語指導助手や英語指導の専門性を有する外部の専門人材の配置への支援を行うとともに、それらの質を確保するための研修等を含めた取組を充実していく必要がある。

(改善方策)

- ・国、教育委員会は、効果的なチーム・ティーチングが可能となるよう外国語指導助手の指導力向上のために必要な研修を実施する。
- ・国は、JETプログラムによる外国語指導助手の配置について、所要の地方財政措置を講じる。地方公共団体は、JETプログラムの積極的活用を図るとともに、学校や教職員をサポートする英語の専門人材に対する支援の充実を検討する

グローバル化に対応した英語教育改革実施計画スケジュール(イメージ)

(小学校数)



国が定める標準授業時数に上乗せして実施する小学校

研究開発学校・教育課程特例校
(現行の教育課程の基準によらない)

新学習指導要領(小学校英語)の先行実施

小学校の授業時数の考え方など

- 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」
(平成20年1月中央教育審議会)(抜粋)

6. 教育課程の基本的な枠組み

(1) 小・中学校の教育課程の枠組み

② 小学校の授業時数(年間の総授業時数)

- (前略)小学校第4学年から第6学年にかけては現在の週27コマから1コマ増加し、週28コマを年間35週以上にわたって行うこととなる。これについては、学校では、一週間の中で、

- ・ 各教科等の授業以外にも、**特別活動として児童会活動やクラブ活動**が行われているほか、**個別の児童に対する補充指導や生徒指導**といった取組もなされている、
- ・ 9. にあるとおり学校が組織力を高め、教育課題に組織的に対応するに当たっては、**校長や副校長、教頭、主幹教諭、教師との間の情報交換や意思疎通のための時間の確保**なども必要である、

ことなどから、**学習指導要領上の標準授業時数を増加する場合、週28コマが限度**と考えられる。

小・中学校の教科等の構成と標準授業時数

小学校の各教科等の時数(1週当たり単位時間)

※1単位時間は45分、授業は年間35週[1年生は34週]

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	道徳※	外国語活動	総合的な学習の時間	特別活動	合計
1年生	9	-	4	-	3	2	2	-	3	1	-	-	1	25
2年生	9	-	5	-	3	2	2	-	3	1	-	-	1	26
3年生	7	2	5	2.6	-	1.7	1.7	-	3	1	-	2	1	27
4年生	7	2.6	5	3	-	1.7	1.7	-	3	1	-	2	1	28
5年生	5	2.9	5	3	-	1.4	1.4	1.7	2.6	1	1	2	1	28
6年生	5	3	5	3	-	1.4	1.4	1.6	2.6	1	1	2	1	28

中学校の各教科等の時数(1週当たり単位時間)

※1単位時間は50分、授業は年間35週

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	道徳※	総合的な学習の時間	特別活動	合計
1年生	4	3	4	3	1.3	1.3	3	2	4	1	1.4	1	29
2年生	4	3	3	4	1	1	3	2	4	1	2	1	29
3年生	3	4	4	4	1	1	3	1	4	1	2	1	29

※道徳については、小学校で平成30年度、中学校で平成31年度から「特別の教科」として位置づけられる。時数の変更はない。

小学校の標準授業時数について（前回との比較）

（旧）

学年 教科等	1	2	3	4	5	6	計
国語	272 (8)	280 (8)	235 (6.7)	235 (6.7)	180 (5.1)	175 (5)	1377
社会	— —	— —	70 (2)	85 (2.4)	90 (2.6)	100 (2.9)	345
算数	114 (3.4)	155 (4.4)	150 (4.3)	150 (4.3)	150 (4.3)	150 (4.3)	869
理科	— —	— —	70 (2)	90 (2.6)	95 (2.7)	95 (2.7)	350
生活	102 (3)	105 (3)	— —	— —	— —	— —	207
音楽	68 (2)	70 (2)	60 (1.7)	60 (1.7)	50 (1.4)	50 (1.4)	358
図画 工作	68 (2)	70 (2)	60 (1.7)	60 (1.7)	50 (1.4)	50 (1.4)	358
家庭	— —	— —	— —	— —	60 (1.7)	55 (1.6)	115
体育	90 (2.6)	90 (2.6)	90 (2.6)	90 (2.6)	90 (2.6)	90 (2.6)	540
道徳	34 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	209
特別 活動	34 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	209
総合的な 学習の時間	— —	— —	105 (3)	105 (3)	110 (3.1)	110 (3.1)	430
合計	782 (23)	840 (24)	910 (26)	945 (27)	945 (27)	945 (27)	5367

※（ ）内は週当たりのコマ数

（現行）

学年 教科等	1	2	3	4	5	6	計
国語	306 (9)	315 (9)	245 (7)	245 (7)	175 (5)	175 (5)	1461
社会	— —	— —	70 (2)	90 (2.6)	100 (2.9)	105 (3)	365
算数	136 (4)	175 (5)	175 (5)	175 (5)	175 (5)	175 (5)	1011
理科	— —	— —	90 (2.6)	105 (3)	105 (3)	105 (3)	405
生活	102 (3)	105 (3)	— —	— —	— —	— —	207
音楽	68 (2)	70 (2)	60 (1.7)	60 (1.7)	50 (1.4)	50 (1.4)	358
図画 工作	68 (2)	70 (2)	60 (1.7)	60 (1.7)	50 (1.4)	50 (1.4)	358
家庭	— —	— —	— —	— —	60 (1.7)	55 (1.6)	115
体育	102 (3)	105 (3)	105 (3)	105 (3)	90 (2.6)	90 (2.6)	597
道徳	34 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	209
特別 活動	34 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	35 (1)	209
総合的な 学習の時間	— —	— —	70 (2)	70 (2)	70 (2)	70 (2)	280
外国語 活 動	— —	— —	— —	— —	35 (1)	35 (1)	70
合計	850 (25)	910 (26)	945 (27)	980 (28)	980 (28)	980 (28)	5645

中学校の標準授業時数について（前回との比較）

（旧）

（現行）

学年 教科等	1	2	3	計
国 語	140 (4)	105 (3)	105 (3)	350
社 会	105 (3)	105 (3)	85 (2. 4)	295
数 学	105 (3)	105 (3)	105 (3)	315
理 科	105 (3)	105 (3)	80 (2. 3)	290
音 楽	45 (1. 3)	35 (1)	35 (1)	115
美 術	45 (1. 3)	35 (1)	35 (1)	115
保健体育	90 (2. 6)	90 (2. 6)	90 (2. 6)	270
技術・家庭	70 (2)	70 (2)	35 (1)	175
外国語	105 (3)	105 (3)	105 (3)	315
道 徳	35 (1)	35 (1)	35 (1)	105
特別活動	35 (1)	35 (1)	35 (1)	105
選択教科等	0～30 (0～0. 9)	50～85 (1. 4～2. 4)	105～165 (3～4. 7)	155～280
総合的な 学習の時間	70～100 (2～2. 9)	70～105 (2～3)	70～130 (2～3. 7)	210～335
合 計	980 (28)	980 (28)	980 (28)	2940

学年 教科等	1	2	3	計
国 語	140 (4)	140 (4)	105 (3)	385
社 会	105 (3)	105 (3)	140 (4)	350
数 学	140 (4)	105 (3)	140 (4)	385
理 科	105 (3)	140 (4)	140 (4)	385
音 楽	45 (1. 3)	35 (1)	35 (1)	115
美 術	45 (1. 3)	35 (1)	35 (1)	115
保健体育	105 (3)	105 (3)	105 (3)	315
技術・家庭	70 (2)	70 (2)	35 (1)	175
外国語	140 (4)	140 (4)	140 (4)	420
道 徳	35 (1)	35 (1)	35 (1)	105
特別活動	35 (1)	35 (1)	35 (1)	105
総合的な 学習の時間	50 (1. 4)	70 (2)	70 (2)	190
合 計	1015 (29)	1015 (29)	1015 (29)	3045

※（ ）内は週当たりのコマ数

小学校の年間総授業時数について（イメージ）

◆年間の授業週数

年間週数(52週)

学習指導要領で示す
週数の下限(35週)

※1年生は34週

学校行事
等に必要
な週数
(5週
程度)

長期休業、
ゴールデン
ウィーク等
(12週)

平均的な週数(40週)

※22年度実績(小学校5年生)。

「平成25年度公立小・中学校における
教育課程の編成・実施状況調査の結果」による

- 始業式、終業式等の儀式的行事
- 学芸会、鑑賞会等の文化的行事
- 運動会等の健康安全・体育的行事
- 遠足・集団宿泊的行事
- 地域社会の清掃活動、福祉施設との交流活動等の勤労生産・奉仕的行事
- 感染症や気象警報等による臨時休業日の振替 等

◆週あたりの授業コマ数（4年生～6年生）

	月	火	水	木	金
1					
2					
3					
4					
5					
6			クラブ活動 児童会活動	※	

週28コマ

※ 個別の児童に対する補充指導や生徒指導、
学習や生活上の指導についての職員の情報
連絡といった取組に充てられる時間

授業時数外の2コマの取り扱いについて

○ A小学校の例 : 水曜日にまとめて2コマを確保

	5校時	6校時以降
4月2週目	委員会活動	職員会議・服務事故防止研修
4月3週目	市主催の教育研究会(総会、部会)	
4月4週目	クラブ活動	校内研究
5月2週目	授業	市主催の教育研究会(各教科等の部会での協議)
5月3週目	運動会に関する打合せ	
5月4週目	委員会活動	校内研究
6月1週目	授業	補習(習熟が必要な児童への指導)
6月2週目	委員会活動	市主催の教育研究会(各教科等の部会での協議)
6月3週目	クラブ活動	職員会議・スポーツテスト準備
6月4週目	授業	生活指導全体会(指導に配慮を要する児童についての共通理解)
7月1週目	小中連携協議会(学区の中学校教員と小中連携の強化の協議)	
7月2週目	委員会活動	補習(習熟が必要な児童への指導)
7月3週目	クラブ活動	服務事故防止研修、宿泊行事に関する打合せ
9月1週目	委員会活動	職員会議
9月2週目	校内研究(研究授業・協議・講師の指導・助言)	
9月3週目	市主催の教育研究会(研究授業・協議・講師の指導・助言)	
9月4週目	クラブ活動	補習(習熟が必要な児童への指導)
10月1週目	授業	学級事務等
10月2週目	委員会活動	学級事務等
10月3週目	市主催の教育研究会(研究授業・協議・講師の指導・助言)	
10月4週目	クラブ活動	職員会議
11月1週目	委員会活動	補習(習熟が必要な児童への指導)
11月2週目	校内研究(研究授業・協議・講師の指導・助言)	
11月3週目	市主催の教育研究会(研究授業・協議・講師の指導・助言)	
12月1週目	授業	市主催の教育研究会(各教科等の部会での協議)
12月2週目	校内研究(研究授業・協議・講師の指導・助言)	
12月3週目	クラブ活動	服務事故防止研修
1月2週目	授業	市主催の教育研究会(各教科等の部会での協議)
1月3週目	職員会議	
1月4週目	クラブ活動	学校評価全体会
2月1週目	授業	校内研究
2月2週目	委員会活動	補習(習熟が必要な児童への指導)
2月3週目	市主催の教育研究会(研究発表会)	
2月4週目	クラブ活動	新年度計画全体会
3月1週目	授業	校内研究
3月2週目	授業	職員会議
3月3週目	授業	補習(習熟が必要な児童への指導)
3月4週目	授業	学級事務等

※ 「委員会」、「クラブ活動」は、学習指導要領の特別活動。授業時数に含めない。

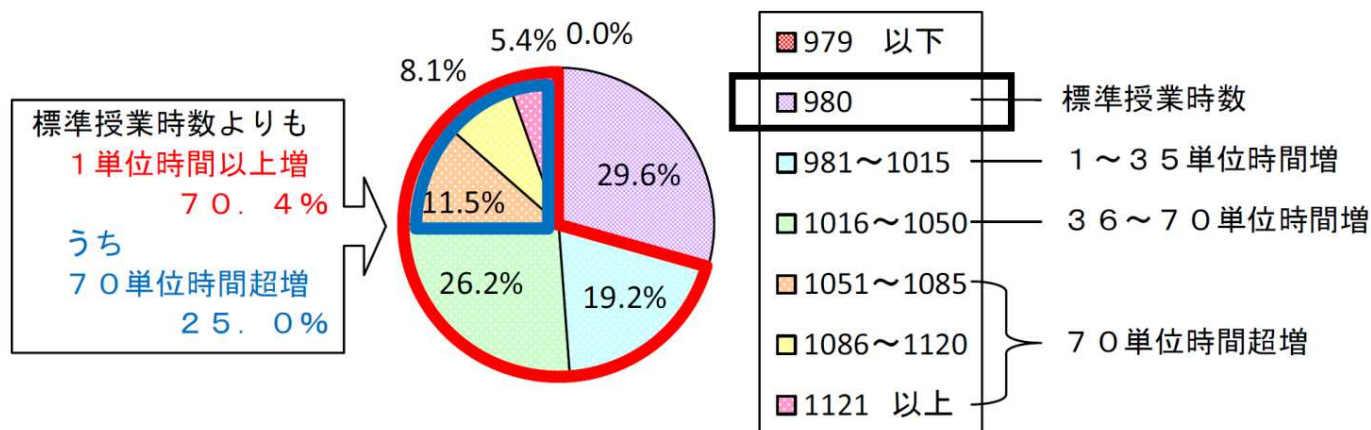
各学校における教育課程の編成状況（公立小・中学校）

年間総授業時数（単位時間）の設定状況

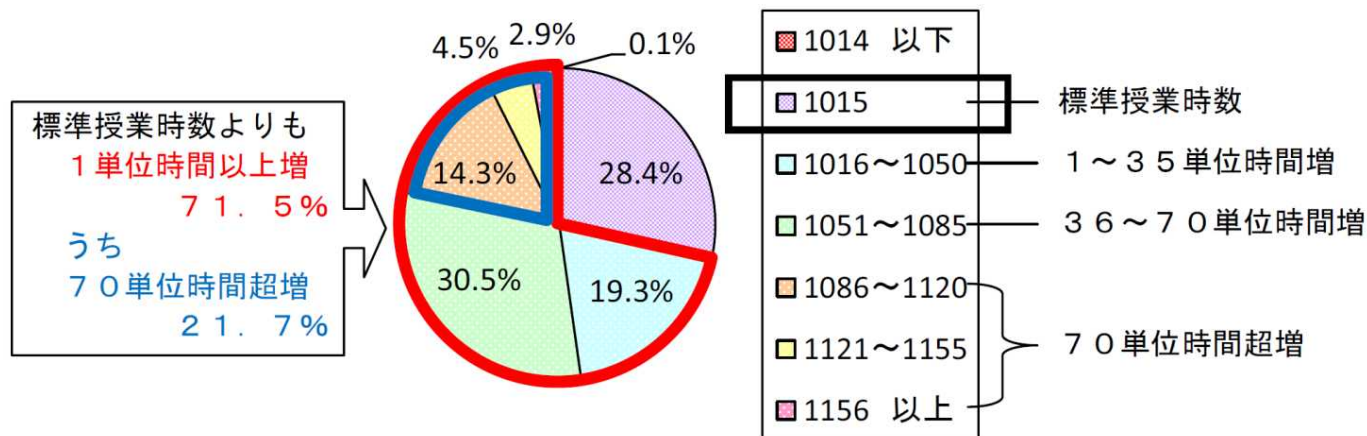
（例）

< 小学校第5学年 >

（1単位時間は小学校で45分、中学校で50分）

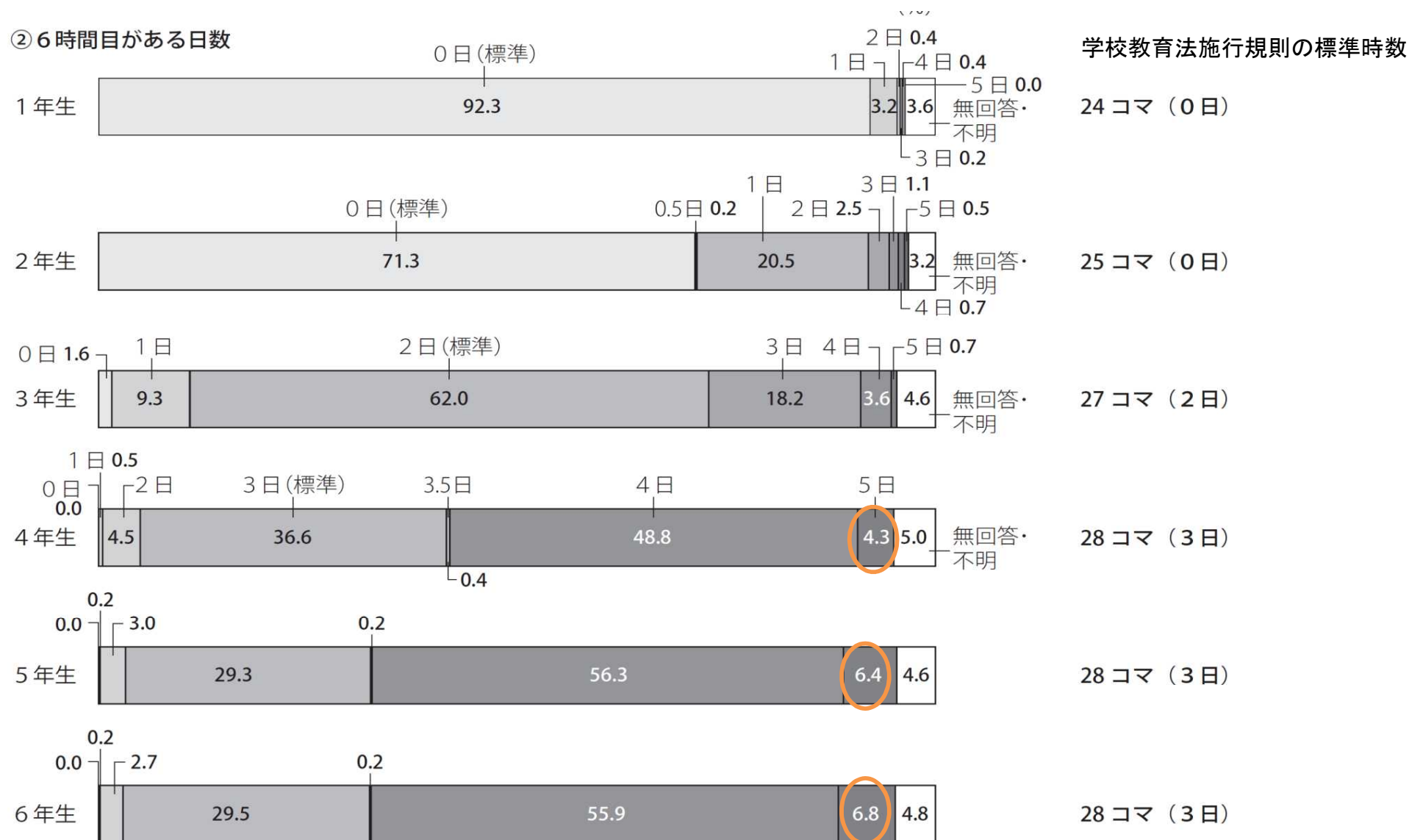


< 中学校第1学年 >



1週間当たりのコマ数に関するデータ

学校教育法施行規則による標準時数でいくと、高学年でおおむね週3～4日が6時間目までの授業となるが、4年生で4.3%、5年生で6.4%、6年生で6.8%の学校が、週5日6時間目までの授業(週30コマ以上)を設定しているというデータがある。
※ただし、本調査上、標準時数が定められていない生徒会活動・クラブ活動について、1コマとしてカウントして回答されている場合が多いと見られる。



注) サンプル数は560人。

小学校教員の1週間の勤務時間（時間外勤務を含む）のうち、

- **校内の会議・打ち合わせの時間**

週当たり約150分（1日当たり約30分）程度。

全教員が参加する職員会議のほか、学年会などの時間も含む。

うち週35分程度は勤務時間外。

- **校内研修の時間**

週当たり約50分程度。

すべて勤務時間内。校内研修は超過勤務命令を発する要件に該当しないため、職務としての校内研修は、勤務時間内にしか行うことはできない。

文部科学省「教員勤務実態調査」（平成18年実施）

平成18年7月3日（月）から平成18年12月17日（日）にかけて、1期を4週間とし、以下の日程で合計6期の調査を行ったもの。

上記時間数は、第6期：平成18年11月20日（月）から平成18年12月17日（日）までの4週間のデータによる。

○学校教育法施行規則第51条別表第1 備考

1 この表の授業時数の1 単位時間は、45分とする。

○総則（第1章第3の3）

各教科等のそれぞれの授業の1 単位時間は、各学校において、各教科等の年間授業時数を確保しつつ、児童の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して適切に定めるものとする。

小学校の授業の1単位時間②

○小学校学習指導要領解説総則編（4 授業の1単位時間（第1章第3の3））

授業の1単位時間すなわち日常の授業の1コマを何分にするかについては、児童の学習についての集中力や持続力、指導内容のまとまり、学習活動の内容等を考慮して、どの程度が最も指導の効果をあげ得るかという観点から決定する必要がある。

各教科等の授業の1単位時間は、各学年及び各教科等の年間授業時数を確保しつつ、児童の発達の段階及び各教科等や学習活動の特質を考慮して、各学校において定めることとした。これは、例えば、実験や観察の際の理科の授業は60分で行うことや計算や漢字の反復学習を10分間程度の短い時間を活用して行うことなど、児童の発達の段階及び各教科等や学習活動によっては授業時間の区切り方を変えた方が効果的な場合もあることを考慮したものである。特に、特定の学習活動を10分間程度の短い時間を活用して行う場合については、当該教科や学習活動の特質に照らし妥当かどうかの教育的な配慮に基づいた判断が必要であり、例えば、道徳の時間や特別活動（学級活動）の授業を毎日10分間程度の短い時間を活用して行うことは、通常考えられない。また、10分間程度の短い時間を活用して児童が自らの興味や関心に応じて選んだ図書について読書活動を実施するなど指導計画に適切に位置付けることなく行われる活動は、授業時数外の教育活動となることは言うまでもない。

各授業時数の1単位時間を定めるに当たっては、学校教育法施行規則第51条別表第1に定める授業時数の1単位時間は45分とするとの規定は従前どおりとしており、総則でいう「年間授業時数を確保しつつ」という意味は、あくまでも授業時数の1単位時間を45分として計算した学校教育法施行規則第51条別表第1に定める授業時数を確保するという意味であることに留意する必要がある。すなわち、各教科等の年間授業時数は各教科等の内容を指導するのに実質的に必要な時間であり、これを確保することは前提条件として考慮されなければならないということである。また、具体的な授業の1単位時間は、指導内容のまとまりや学習活動の内容を考慮して教育効果を高める観点に立って、教育的な配慮に基づき定められなければならない。

######

【参考】中学校学習指導要領 総則

第3 授業時数等の取扱い

3. ……なお、10分間程度の短い時間を単位として特定の教科の指導を行う場合において、当該教科を担当する教師がその指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任をもって行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科の年間授業時数に含めることができる。

始業前や放課後等の学習の実施状況（平成19年調査）

小学校 89.2%

中学校 86.8%

（週あたりの平均時間は50分以内が半数）

朝の帯学習の例

○ A小学校における例

各学級において朝読書。月曜及び水曜は「はりきりタイム」と合わせて児童朝会や各種集会活動等の全校での活動。

	時 程	月	火	水	木	金
児童登校 朝の準備	8:15~ 8:25	8:15出勤、押印 職員挨拶はなし 教室で指導				
朝の時間	8:25~ 8:35	児童朝会 マーチング	朝読書	体育朝会 音楽朝会 兄弟学年 下校班	朝読書	朝読書
はりきり タイム	8:35~ 8:45		はりきり		はりきり	はりきり
話し合い	8:45~ 8:50					
1 時間目	8:50~ 9:35					

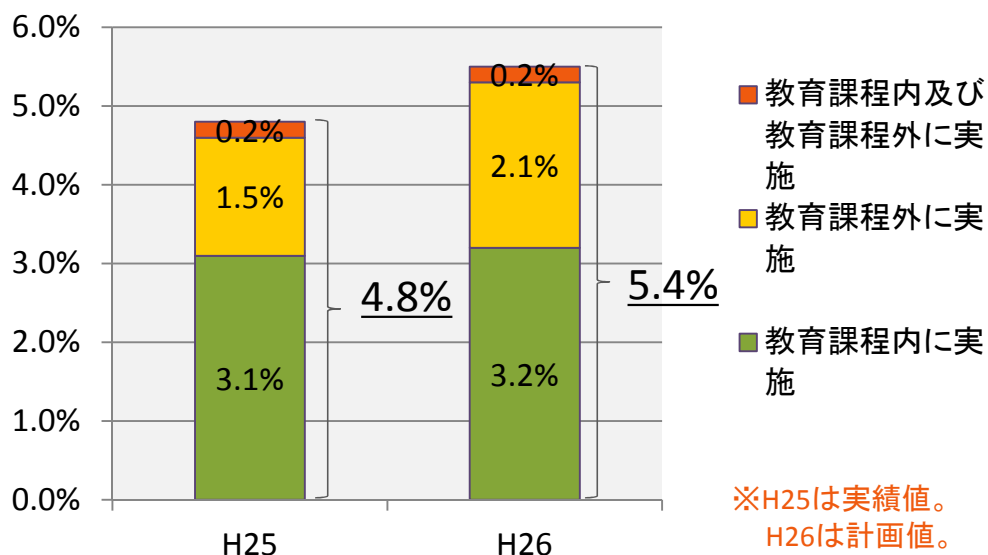
各学級における担任からの指導、係等からの連絡など

各学級において漢字や計算の練習等基礎的・基本的知識・技能の定着

外国語活動等におけるモジュール学習の活用状況

- 平成25年度は4.8%の学校が実施しており、平成26年度は5.4%の学校が実施予定である。
- その実施については、平成25年度は3.1%の学校が「教育課程内」に実施しており、1.5%の学校が「教育課程外」に実施している。平成26年度は3.2%の学校が「教育課程内」に実施予定であり、2.1%の学校が「教育課程外」に実施予定である。

外国語活動等におけるモジュール学習の実施状況



モジュール学習における指導者および教材の状況

- モジュール学習（教育課程内に実施）における指導者は、平成25年度は「学級担任」が59.6%と最も多く、次いで「学級担任及びALT等」が22.5%である。
- モジュール学習（教育課程内に実施）における使用教材は、平成25年度は「自作テキスト・絵カード・ビデオ」が72.9%と最も多く、次いで「自作デジタル教材・ビデオ」が44.8%である。

モジュール学習の年間指導計画作成・回数等の状況

- モジュール学習（教育課程内に実施）の年間指導計画は、平成25年度は83.3%の学校が作成している。
- モジュール学習（教育課程内に実施）の回数等の状況は、平成25年度は「15分以上20分未満」かつ「週3回」が25.3%と最も多く、次いで「20分以上」かつ「週1回」が14.2%となっている。

	5分未満		5分以上 10分未満		10分以上 15分未満		15分以上 20分未満		20分以上	
1回	7	1.1%	31	4.7%	45	6.8%	90	13.6%	94	14.2%
2回	1	0.2%	3	0.5%	19	2.9%	14	2.1%	26	3.9%
3回	0	0.0%	1	0.2%	18	2.7%	168	25.3%	0	0.0%
4回以上	2	0.3%	60	9.0%	37	5.6%	28	4.2%	19	2.9%

※時間は1回当たりの時間とする。年間を通じて時間が均一でない場合は、平均的な時間とする。